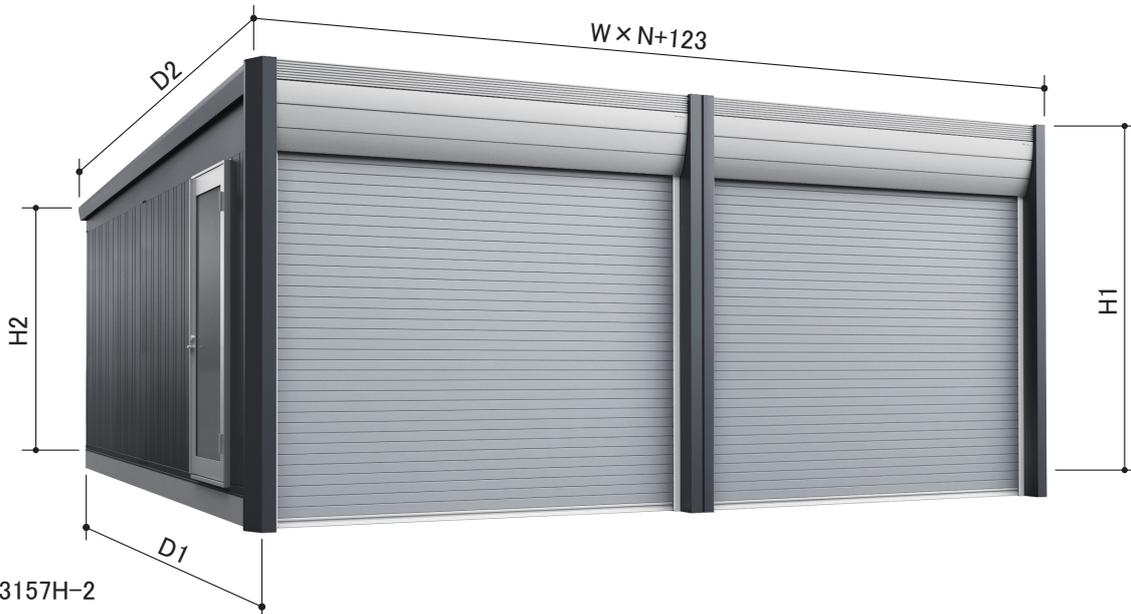


## イナバガレージ 連棟型 組立説明書

このたびは、イナバガレージ「アルシア」をお買い上げくださり誠にありがとうございました。  
 私たちは、この製品の開発にあたって「良いものを安く」をモットーに、苦心して作り上げました。  
 どうぞ末永くご愛用いただきますようお願い申し上げます。  
 この製品の組み立てについてご説明いたしますので、かならずお読みください。  
 組立説明書の基礎図・アンカー工事については標準的施工方法とします。  
 異なる施工を行う場合は、予め当社にご相談ください。  
 なお、ご使用にあたっての注意については、取扱説明書・製品保証書をお読みください。



写真はDR-3157H-2

■外形寸法表[単位:mm]

※Nは連棟数

機種	W	D1	D2	H1	H2	機種	W	D1	D2	H1	H2
DR-3157HP・HY□-N	3130	5865	5996	2670	2412	DR-3162HP・HY□-N	3130	6365	6496	2670	2388
DR-3157JP・JY□-N				2970	2712	DR-3162JP・JY□-N				2970	2688
DR-3657HP・HY□-N	3630	5865	5996	2670	2412	DR-3662HP・HY□-N	3630	6365	6496	2670	2388
DR-3657JP・JY□-N				2970	2712	DR-3662JP・JY□-N				2970	2688

※機種名の□はTypeIによって表記が異なります。AまたはBが入ります。

### 組み立てにあたっての注意事項

#### ●設置場所

- 崖の縁や屋上など、安全の確認の出来ない場所への設置は避けてください。
- 非常時の避難通路となるような場所には設置しないでください。
- 家からの雪が直接屋根に落ちてくる場所への設置は避けてください。
- 家の屋根からまとまった雨水が直接屋根や壁に落ちないように配慮してください。
- 強度の関係上、連棟数に応じて間仕切壁が必要となる場合があります。(カタログ等でご確認ください)

#### ●組み立て

- アンカー工事を必ず行ってください。
- 強風時などの天候の悪い日の組み立ては避けてください。
- 30kg以上の梱包や部材の運搬・組立は、2人以上で行ってください。
- ヘルメット・手袋・長袖シャツなどの保護具や脚立等を使用し、安全確認の上作業してください。
- 組立中は部材の転倒防止のために、つかい棒やロープ等でしっかり固定してください。
- 組立途中で放置しないでください。

# 組立順序のご説明

組立にあたって、部品の共通性・互換性を持たせるために、取付穴が余分にあげてあります。相手に穴のない所はボルト締めする必要はありません。各取付穴は、組立を容易にするために余裕を持たせてあります。片寄った締め方をすると、部品が入らなかったり穴が合わない場合がありますので、この場合はボルトをゆるめ調整してください。電動工具を使用する際は、ネジ山が破損し空回りするおそれがありますので、締めすぎにご注意ください。

## 1.基礎施工

入口部の基礎高さが、地盤面(G.L)かつ土間面(F.L)のどちらからも**50~200mm(高基礎仕様の場合:200~500mm)**の範囲に納まるように、水盛り・遣り方にしながら根伐・砂利等で地固めをし、下図のように基礎を作ります。  
 ※この説明書における基礎は、積雪荷重1200N/m<sup>2</sup>(一般型)と、4500N/m<sup>2</sup>(豪雪型)の標準施工図面です。

設置場所や、地域の実情にあった基礎工事をしてください。  
 ※軟弱な地盤や寒冷地等は地域の実情に合わせた基礎にしてください。

安全確保のため、アンカー工事には十分注意してください。

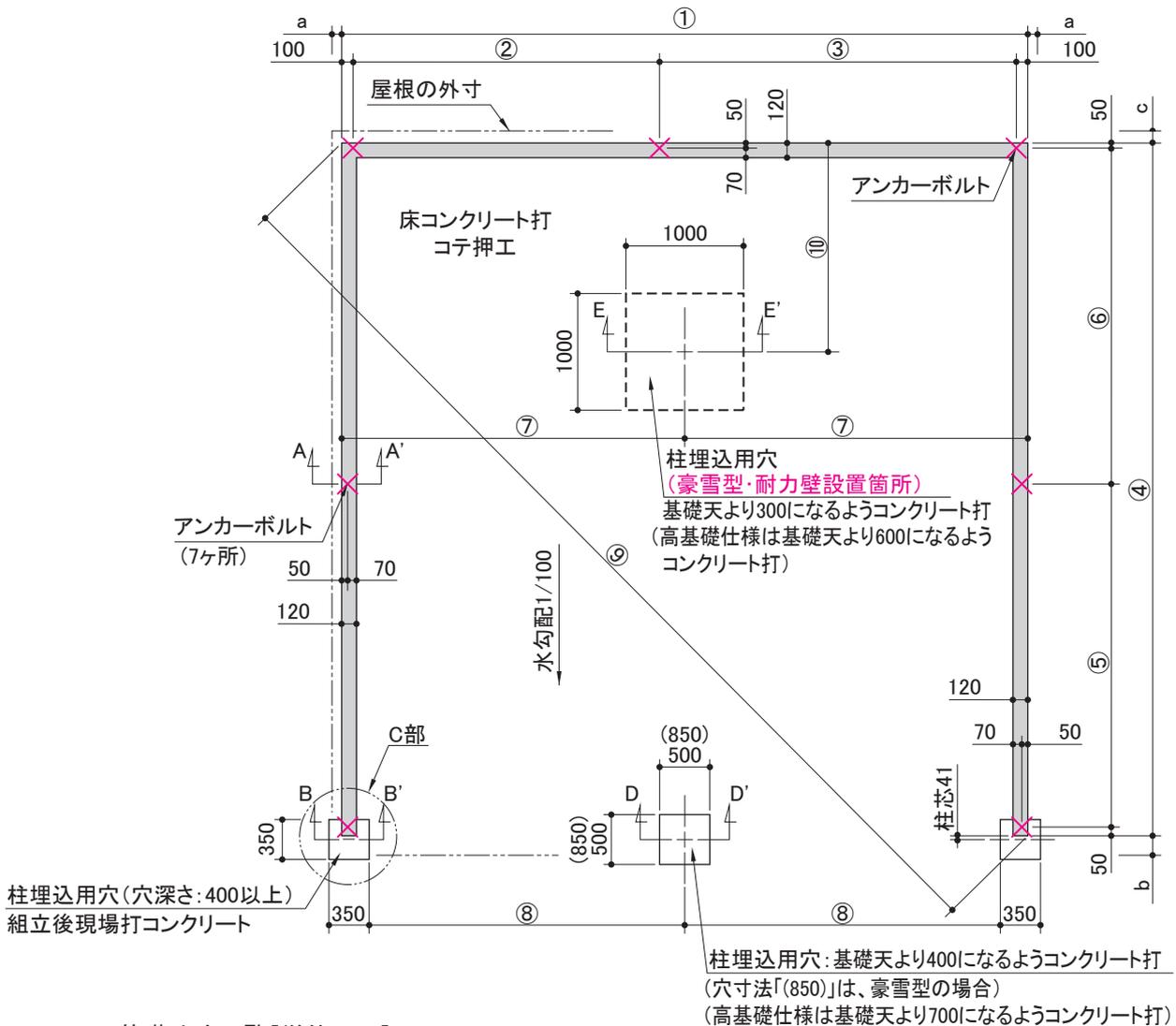
### 2連棟の場合

#### ■基礎施工図[単位:mm]

※a, b, cは屋根の出幅です。  
 a=51.5, b=171, c=121

▲注意  
 アンカーボルトは布基礎芯ではありません。

×・・・アンカーボルト位置を示す(全7ヶ所)



#### ■基礎寸法一覧[単位:mm]

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
DR-3157-2型	6280	2950	3130	5704	3097	2507	3140	2905	8483.8	1981
DR-3657-2型	7280	3450	3630				3640	3405	9248.5	
DR-3162-2型	6280	2950	3130	6204		3007	3140	2905	8827.7	2356
DR-3662-2型	7280	3450	3630				3640	3405	9564.9	

### 3連棟以上の場合

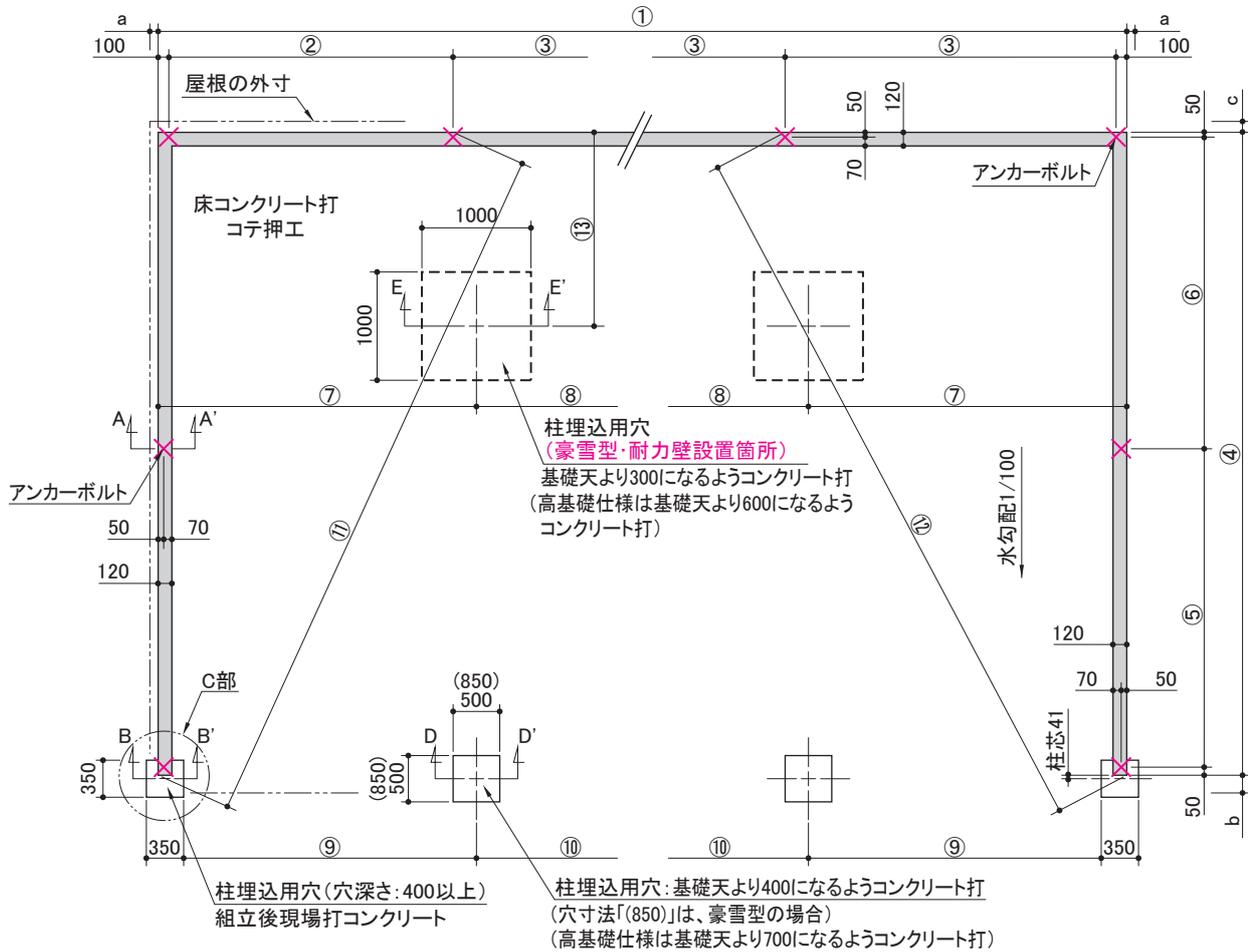
#### ■基礎施工図[単位:mm]

Nは連棟数

※a, b, cは屋根の出幅です。  
a=515, b=171, c=121

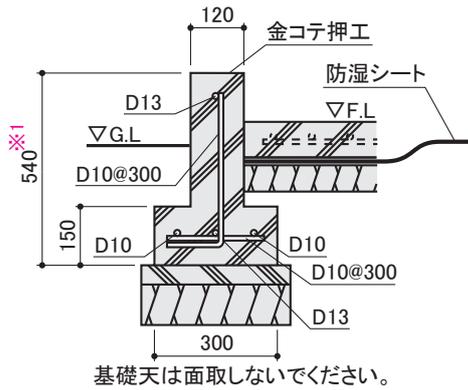
△注意  
アンカーボルトは布基礎芯ではありません。

×・・・アンカーボルト位置を示す



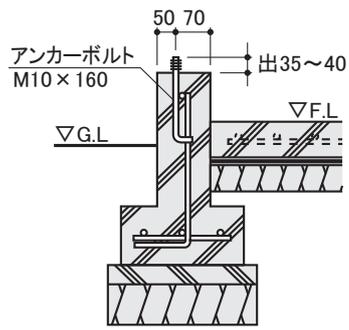
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
DR-3157-N型	Nx3130+20	2950	3130	5704	3097	2507	3140	3130	2905	3130	6468.2	6555.0	1981
DR-3657-N型	Nx3630+20	3450	3630				3640	3630	3405	3630	6718.5	6815.3	
DR-3162-N型	Nx3130+20	2950	3130	6204		3007	3140	3130	2905	3130	6913.2	6994.5	2356
DR-3662-N型	Nx3630+20	3450	3630				3640	3630	3405	3630	7147.9	7239.0	

■基礎断面図[単位:mm]



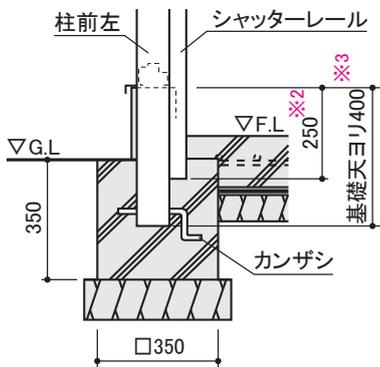
基礎天は面取しないでください。

基礎断面

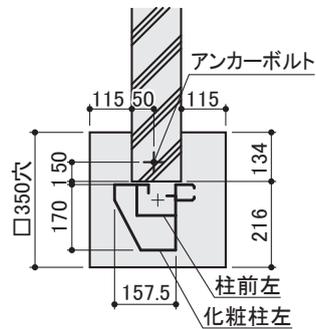


アンカーボルトはM12でも可

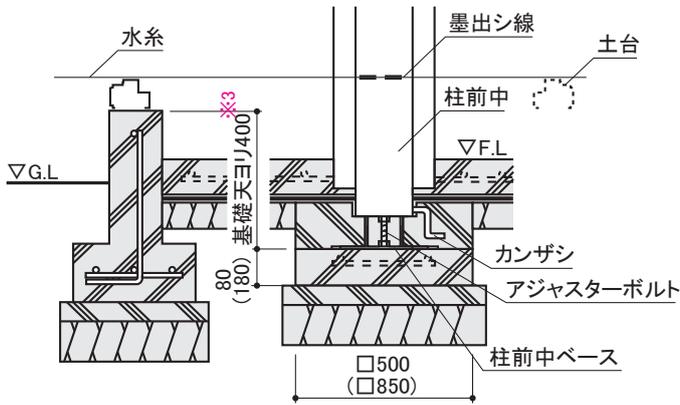
A-A'断面



B-B'断面

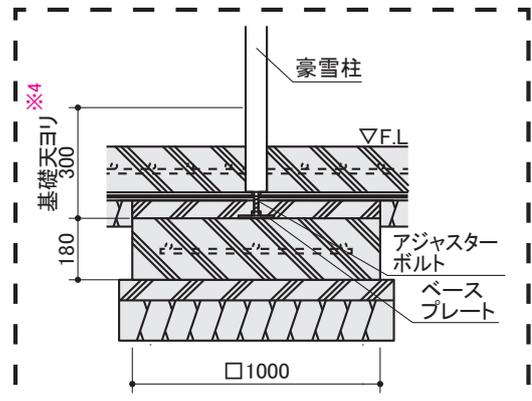


C部

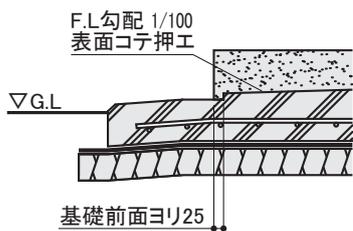


( ) 寸法は豪雪型の場合

D-D'断面



E-E'断面 (豪雪型・耐力壁設置箇所のみ)



入口床面コンクリート仕上断面

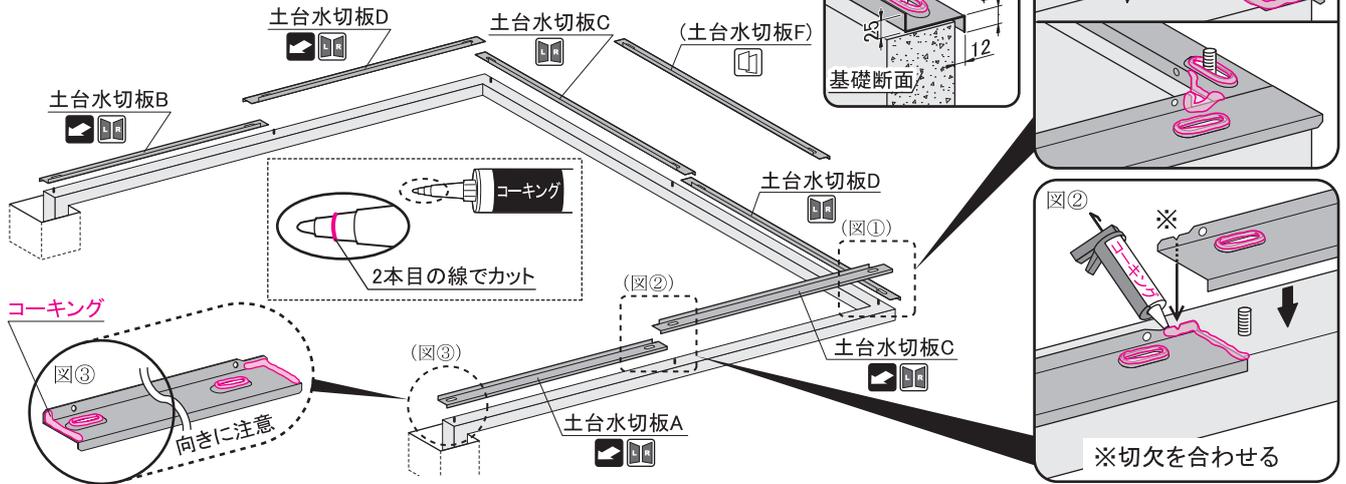
- ※1~4: 高基礎仕様の場合、寸法が変わります。
- ※1: 基礎高さに応じて変更してください。
  - ※2: 250→550
  - ※3: 400→700
  - ※4: 300→600

左右の向きに注意してください。
 
 左右共通の部材です。
 
 上下の向きに注意してください。
 
 前後の向きに注意してください。

## 2. 土台水切板の取付

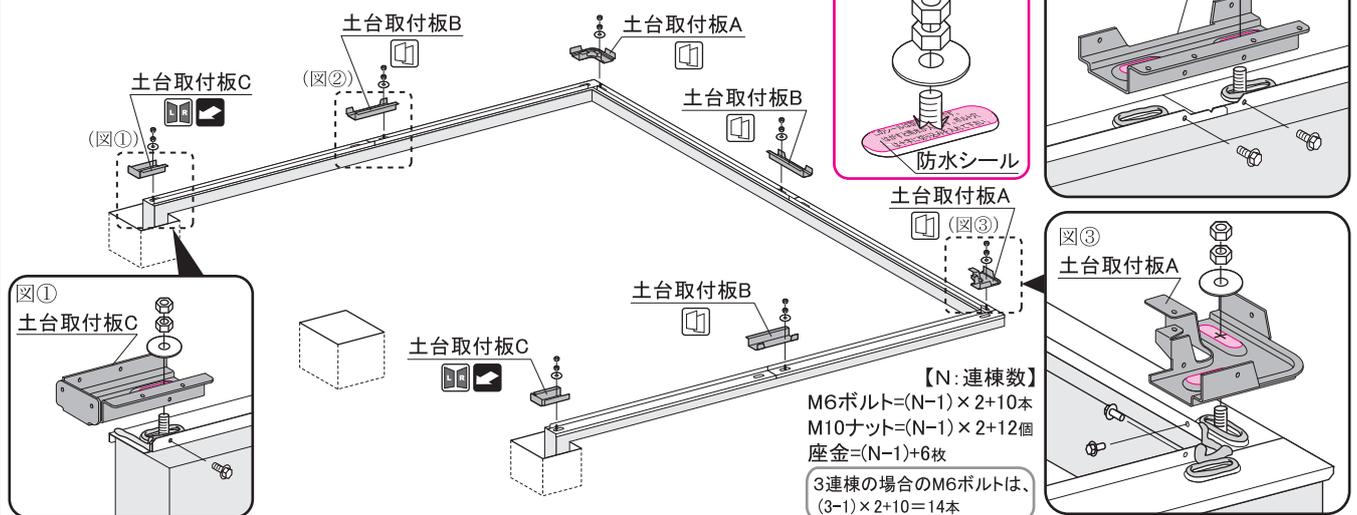
土台水切板を基礎に乗せ、土台水切板の長丸部と重なり部に右図のようにコーキングします。  
 【3連続以上の中間部には、土台水切板Fを使います。】

※内部に雨水が浸入する恐れがありますので、必ずコーキングをしてください。コーキングのノズルは、2本目の線でカットしてください。(φ8程度)



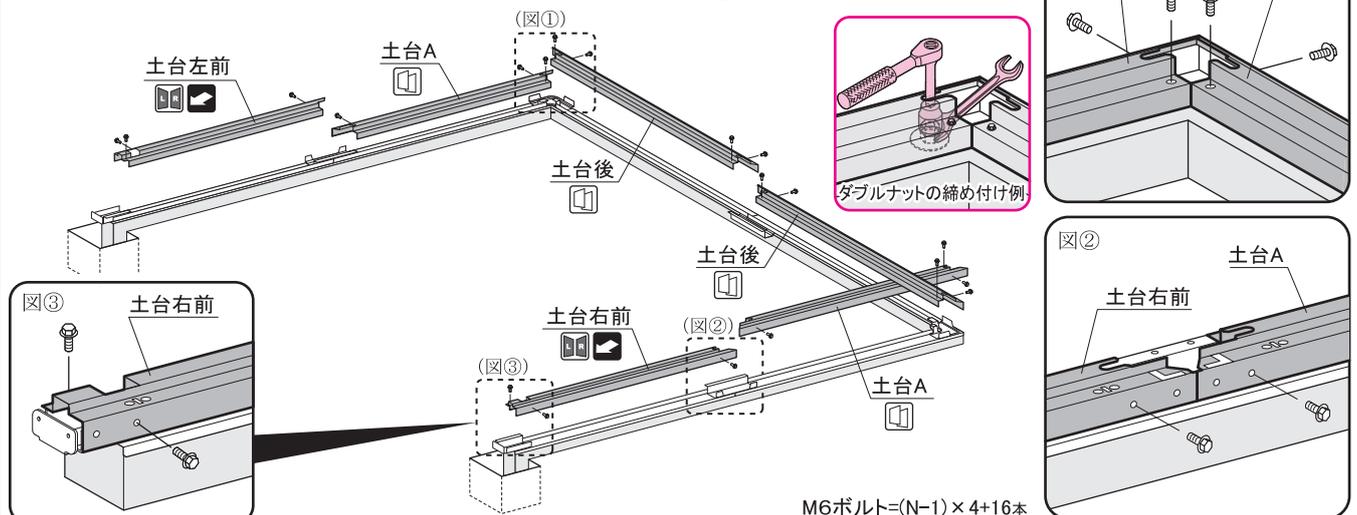
## 3. 土台取付板の取付

土台取付板A・B・Cの防水シールに十字の切り込みを入れアンカーボルトを通します。土台水切板にM6ボルトで取り付け、M10ナットと座金でアンカーボルトに固定します。  
 ※土台取付板の防水シールは、絶対にはがさないでください。



## 4. 土台の取付

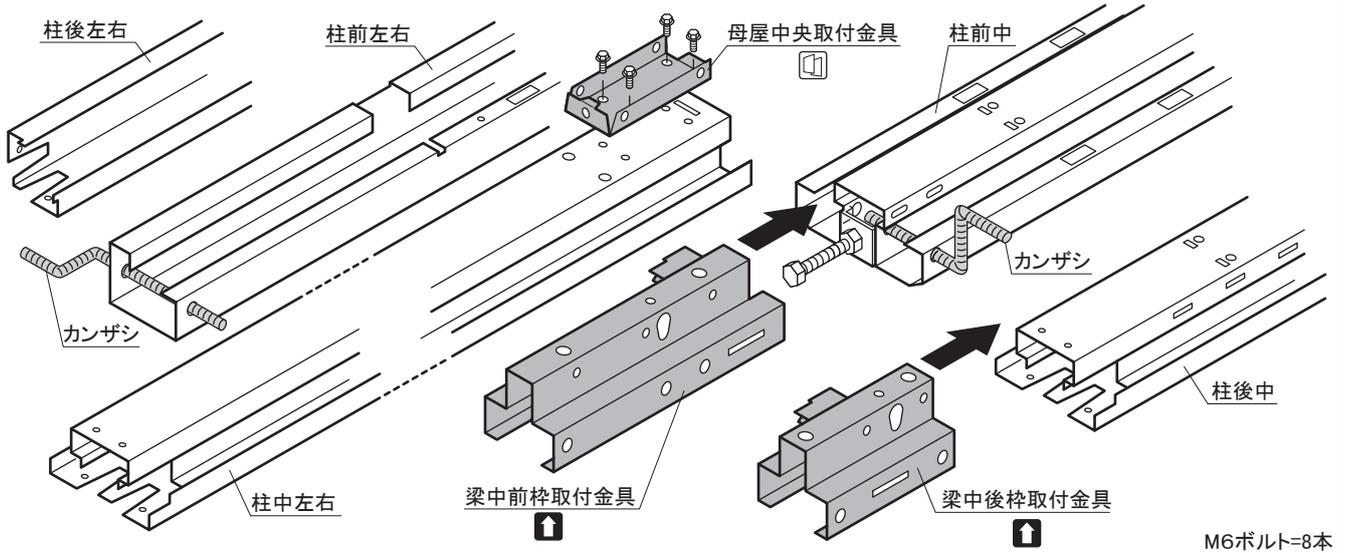
土台A、土台後、土台左右前を土台取付板にかぶせ、M6ボルトで取り付けます。  
 ※土台Aと土台後は同形状です。部材シールを確認して組み立てをしてください。  
 ※アンカーボルトはダブルナット(ナット2つ)によるゆるみ止めを確実に行ってください。



左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

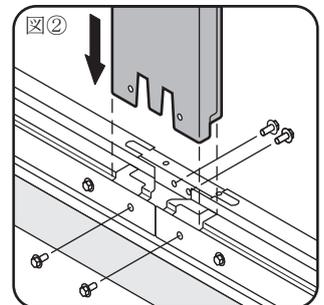
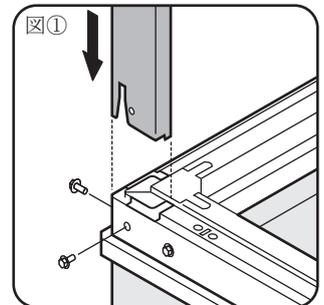
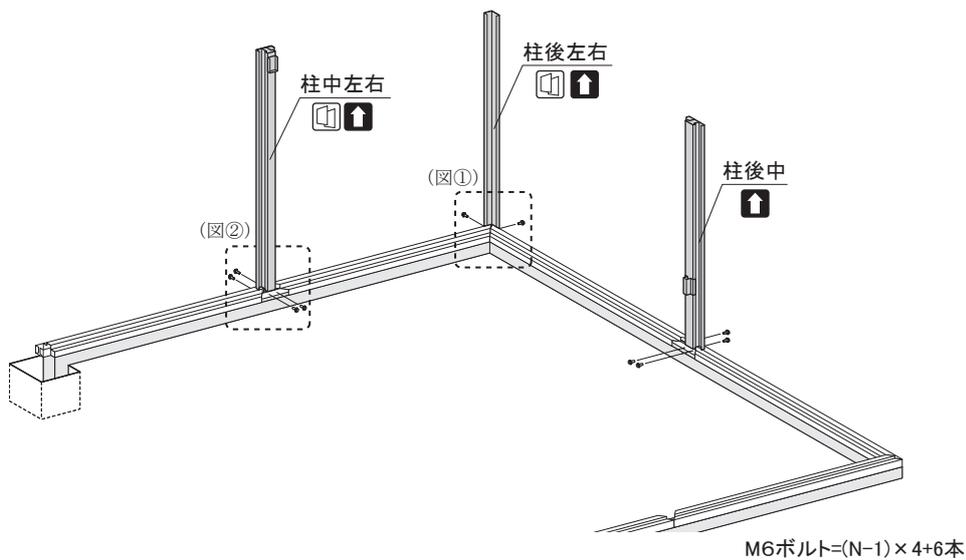
## 5. 柱部品の取付

柱前左右・中にカンザシを差し込み、柱中左右に母屋中央取付金具をM6ボルトで取り付けます。次に柱前中・柱後中に梁中前・後桝取付金具を下からセットします。



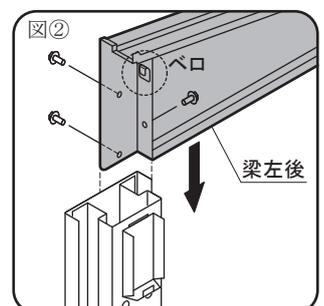
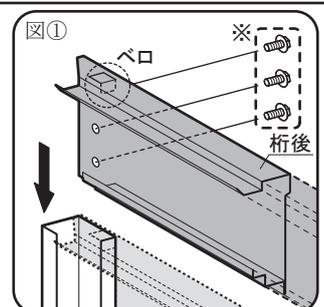
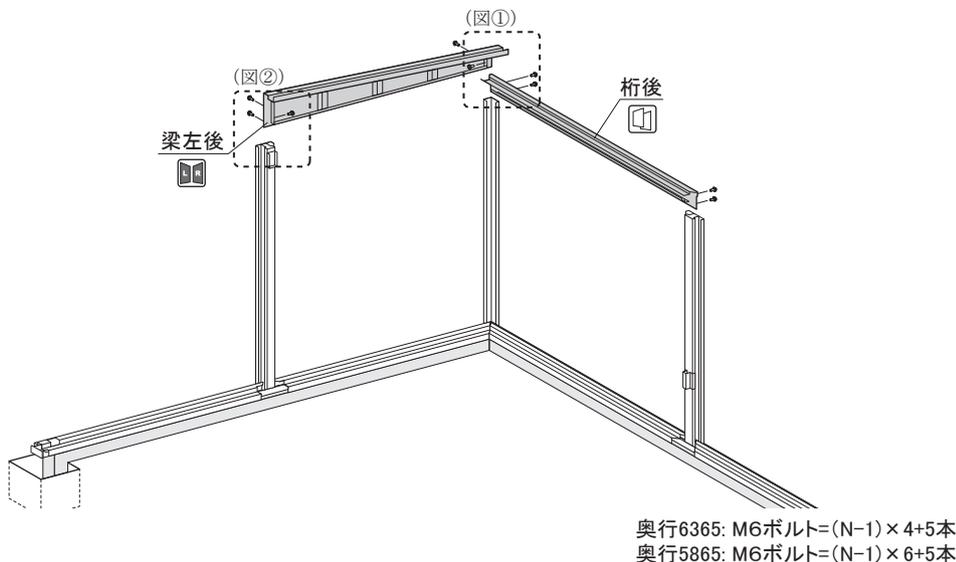
## 6. 柱後左・柱後中・柱中左右の取付

柱後左右、柱後中、柱中左右を土台にM6ボルトで取り付けます。



## 7. 桁後・梁左後の取付

桁後のペロを柱後に引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。梁左後のペロを柱中左右と柱後に引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。

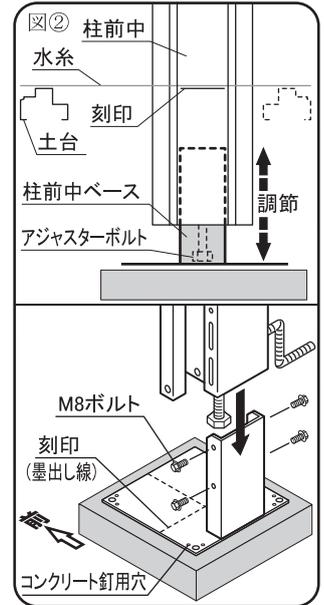
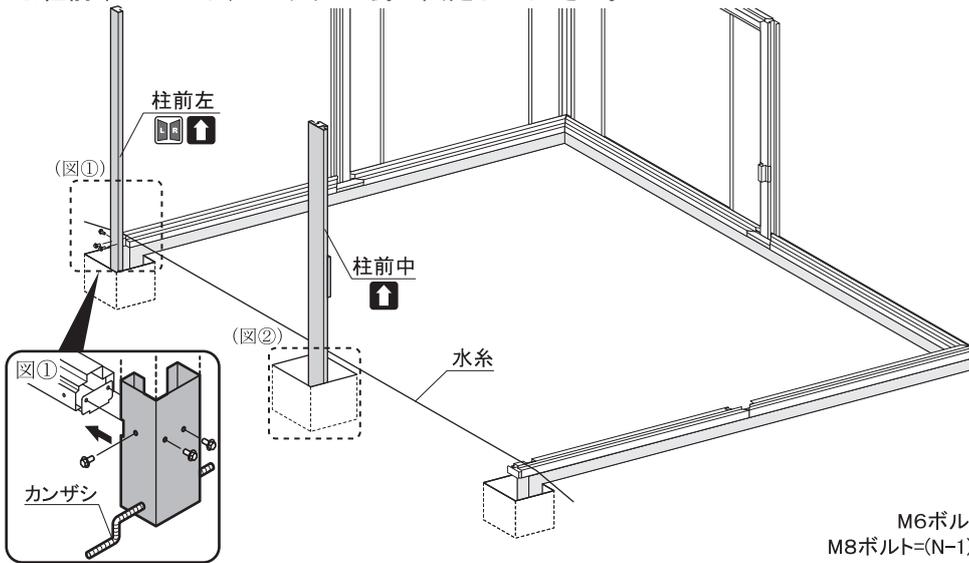




左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

## 9. 柱前左・柱前中の取付

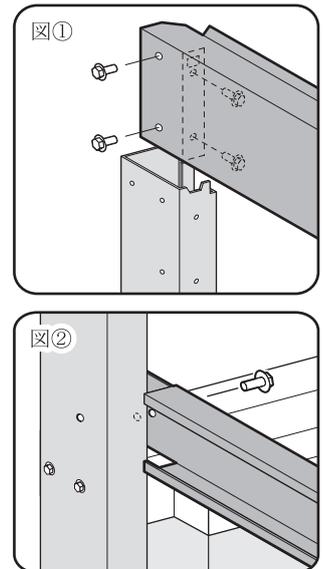
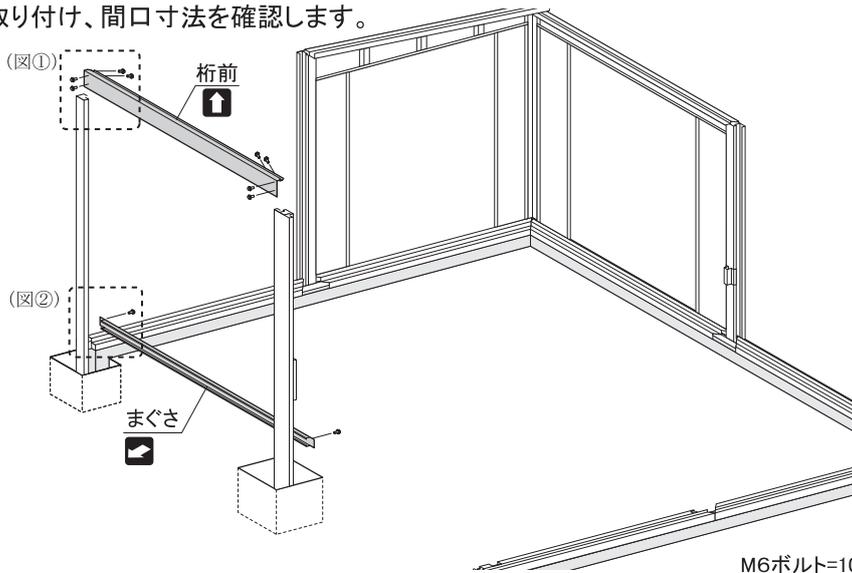
柱前左にカンザシを入れ、土台左前に立てM6ボルトで取り付けます。次に柱前中の刻印を水系に合わせアジャスターボルトで高さを調整し、柱前中ベースにM8ボルトで取り付けます。  
 ※柱前中ベースは、コンクリート釘で固定してください。



M6ボルト=3本  
 M8ボルト=(N-1)×4本

## 10. 桁前・まぐさの取付

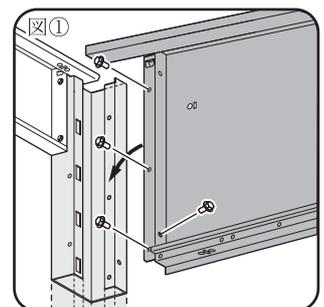
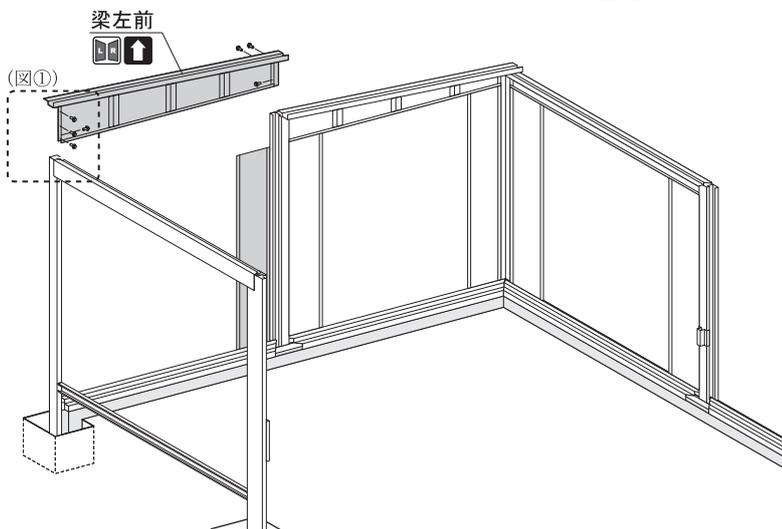
桁前のベロを柱前に引っかけ、M6ボルトで取り付けます。次にまぐさをM6ボルトで柱の一番下の穴に取り付けます。  
 ※まぐさを取り付け、間口寸法を確認します。



M6ボルト=10本

## 11. 梁左前の取付

梁左前を柱に引っかけ、M6ボルトで取り付けます。次に壁パネルを柱中寄りに取り付けます。

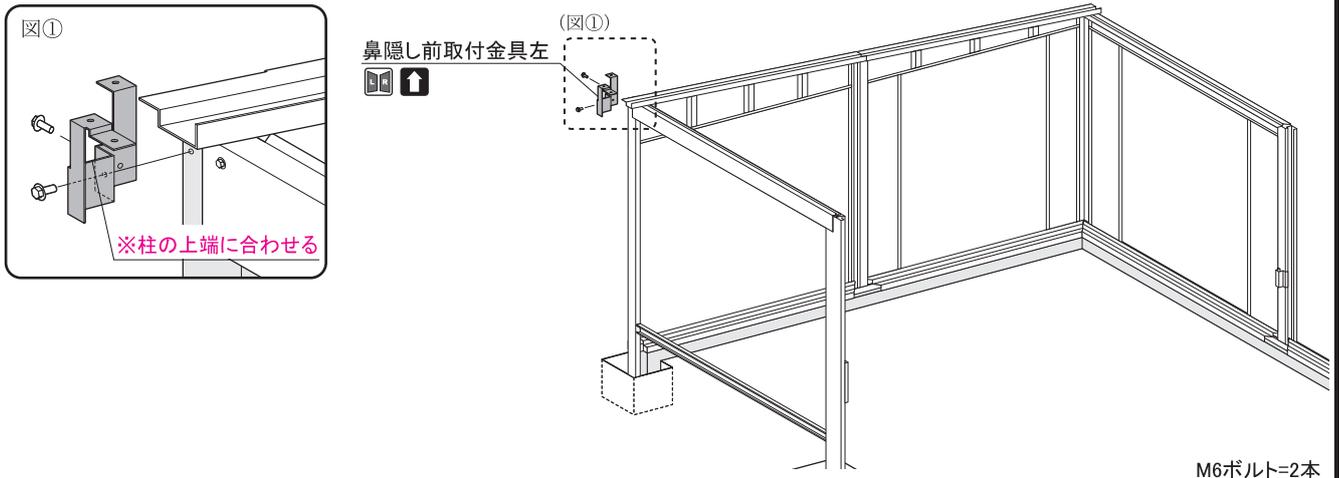


M6ボルト=7本

左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

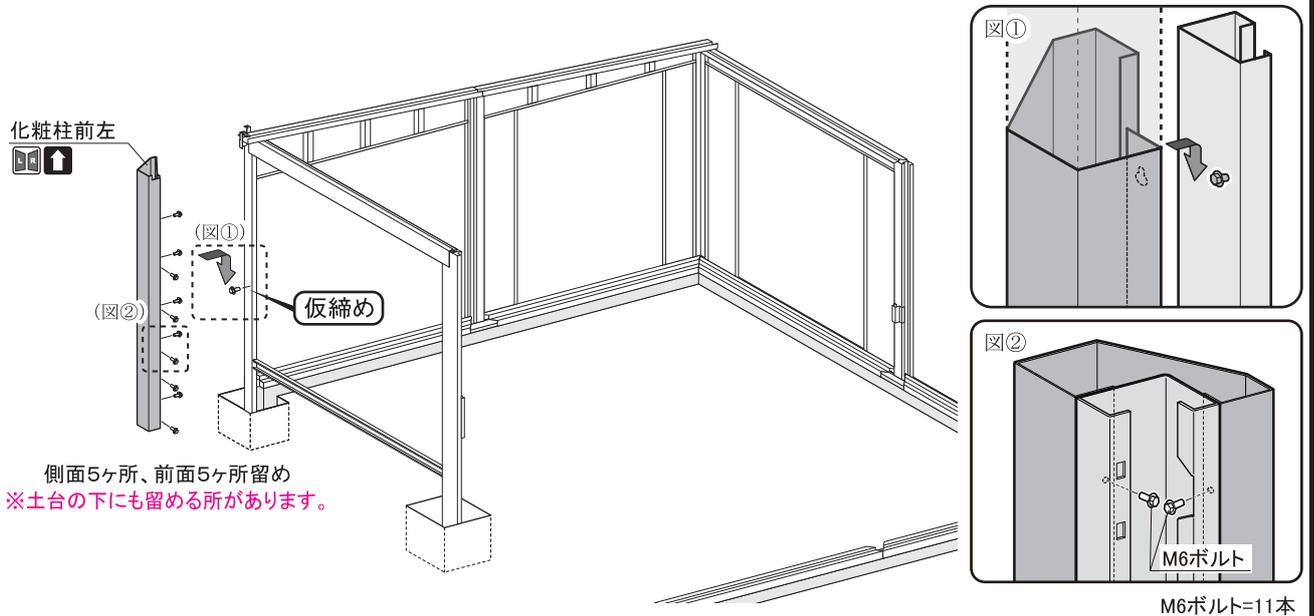
## 12.鼻隠し前取付金具左の組立

鼻隠し前取付金具左をM6ボルトで取り付けます。



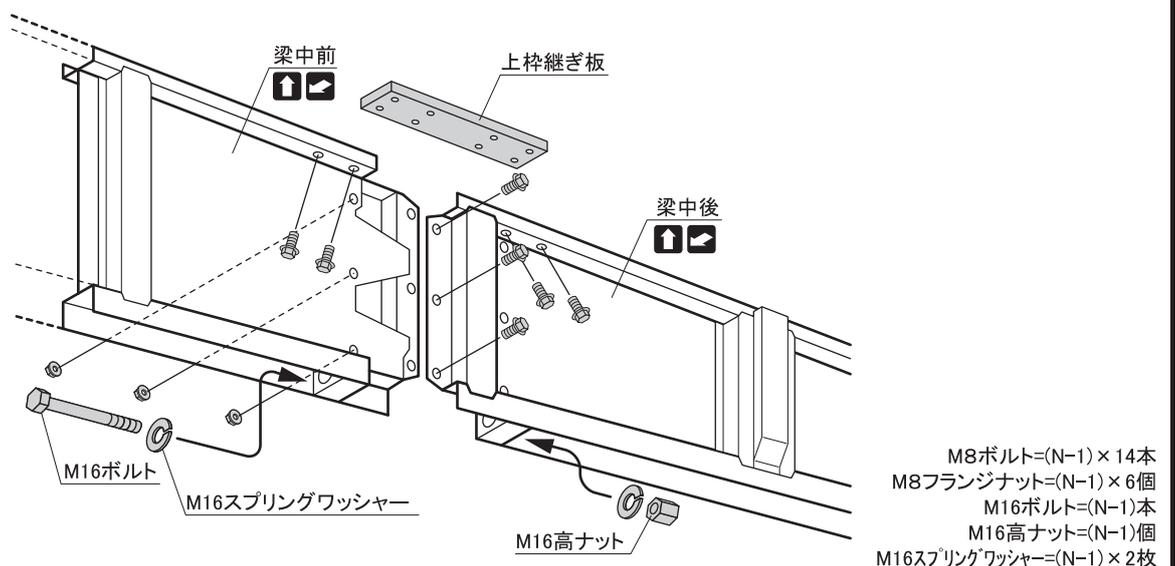
## 13.化粧柱前左・壁パネルの組立

柱前左にM6ボルトを仮締めし、そこに化粧柱前左を引っかけて庫内側からM6ボルトで取り付けます。



## 14.梁中前後の組立

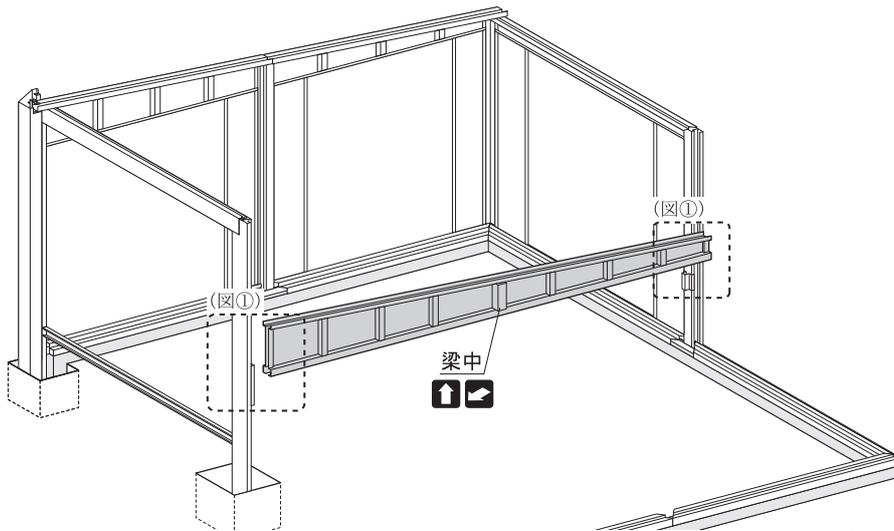
梁中後と梁中前をM8ボルト・ナットで取り付け、上部に上枠継ぎ板をM8ボルトで取り付けます。下部にM16ボルトとM16高ナットを取り付け、梁中前後を引き寄せます。



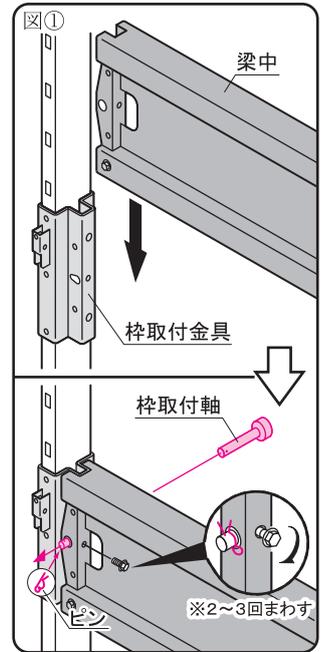
◀ 左右の向きに注意してください。 ◻ 左右共通の部材です。 ⬆ 上下の向きに注意してください。 ▶ 前後の向きに注意してください。

## 15. 梁中の取付

梁中を柱前後中の枠取付金具に上からはめ、枠取付軸を差し込みピンで固定します。この時、○図内のM8ボルトを2,3回まわして仮留めします。

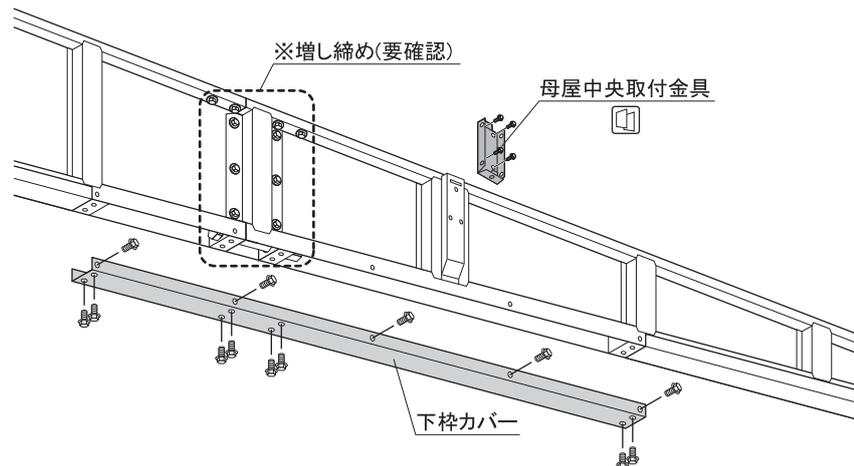


M8ボルト=(N-1)×2本



## 16. 梁中持ち上げ・下枠カバーの取付

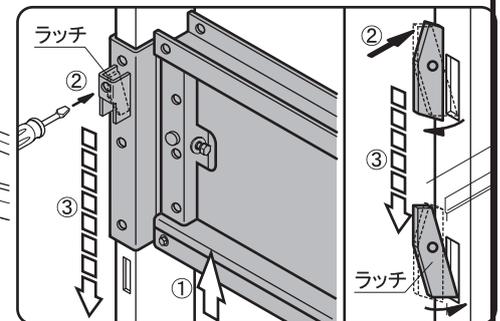
梁中の前と後を交互に水平を保ちながら1m位の高さまで上げ、連結部のM16ボルトを増し締めします。次に下枠カバーをM8ボルトで、母屋中央取付金具をM6ボルトで取り付けます。※持ち上げる時は、「カチャ」というラッチの音を確認しながら上げてください。



M8ボルト=(N-1)×18本  
M6ボルト=(N-1)×8本

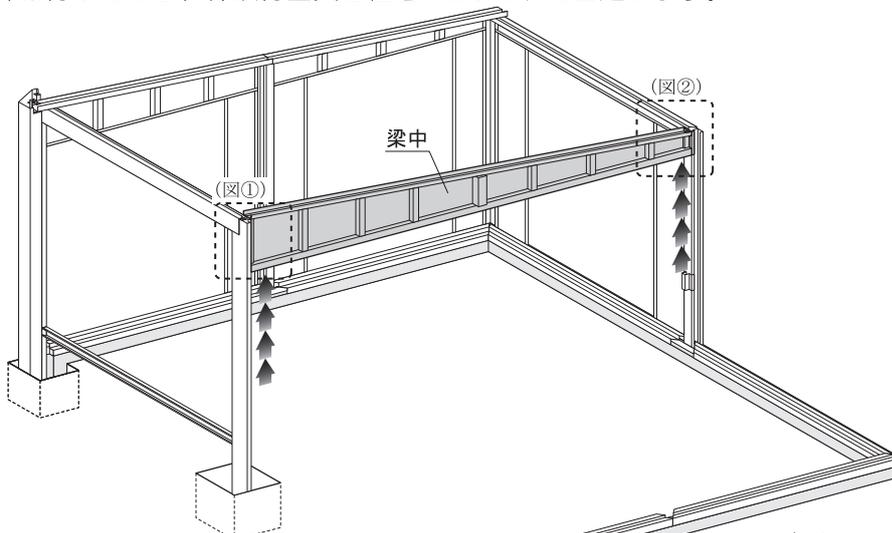
片方を持ち上げすぎた時(解体時)

①梁中を少し持ち上げ、②枠取付金具のラッチをドライバー等で押し、③ゆっくりと下に降ろします。  
※一気に落ちる可能性がありますので、必ず下で支えてください。

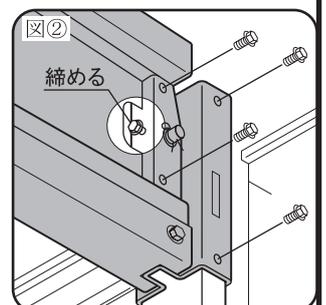
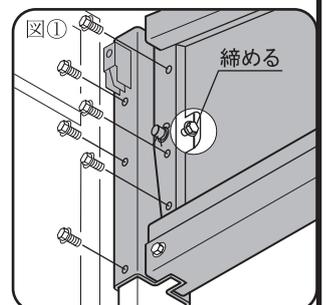


## 17. 梁中の固定

梁中の前・後を交互に1番上まで少しずつ上げ、○内のM8ボルト(右図①②参照)を充分締め付けてから、枠取付金具と柱をM8ボルトで固定します。



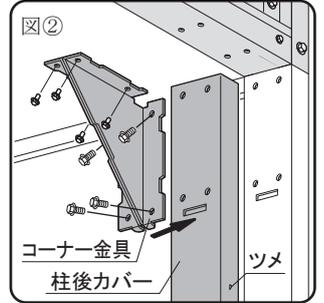
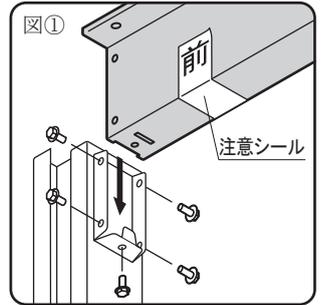
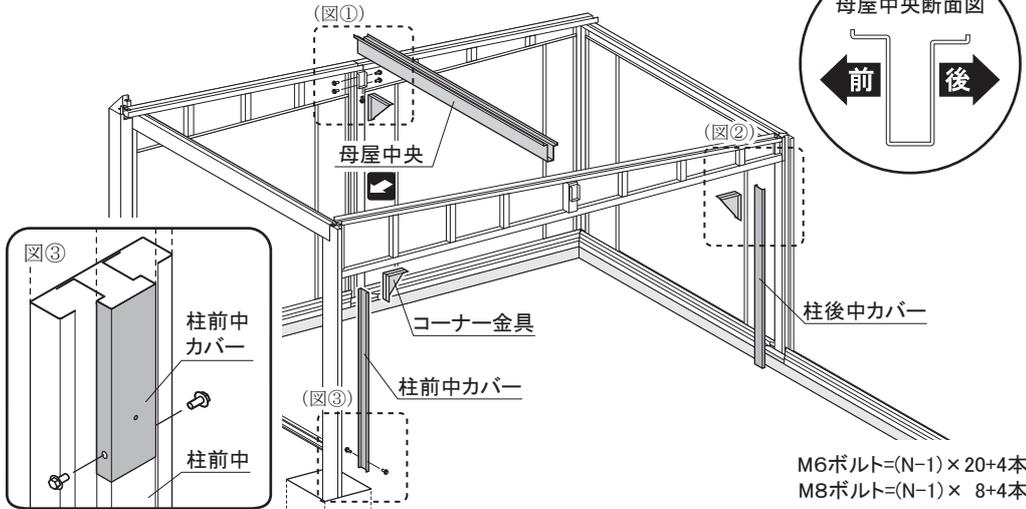
M8ボルト=(N-1)×20本



◻ 左右の向きに注意してください。 ◻ 左右共通の部材です。 ◻ 上下の向きに注意してください。 ◻ 前後の向きに注意してください。

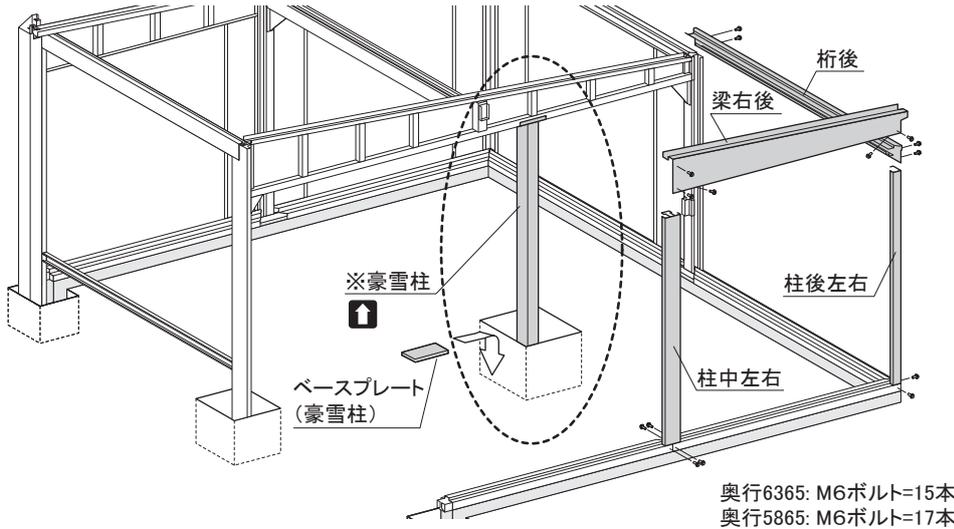
## 18. 母屋中央・コーナー金具・柱前中カバー・柱後中カバーの取付

母屋中央を母屋中央取付金具にM6ボルトで取り付けます。次に柱前(後)中に柱前(後)カバーをかぶせツメを引っかけます。柱前中カバーの下部はM6ボルトで取り付けます。最後にコーナー金具をM6ボルトとM8ボルトで取り付けます。  
 ※3連続以上の場合は、「6」～「18」までの手順を繰り返してください。



## 19. 柱後・桁後・梁右後の取付《豪雪柱の取付》

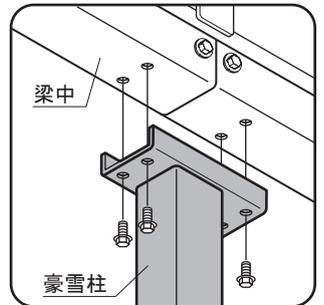
柱後右を土台に取り付け、桁後のベロを柱後に引っ掛けM6ボルトで取り付けます。次に柱中左右を土台に取り付け、梁右後を柱中左右と柱後に引っ掛けM6ボルトで取り付けます。



### 豪雪型の時

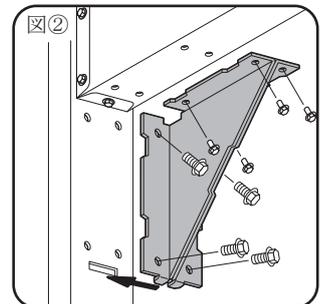
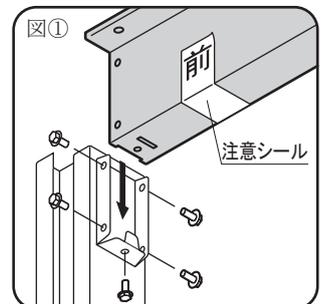
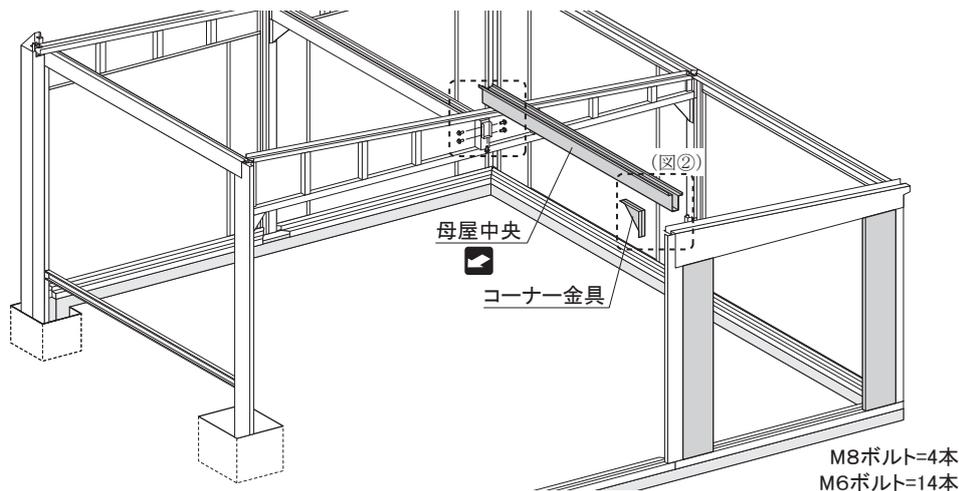
点線部の梁中のM8ボルト(下図参照)を一旦はずし、豪雪柱の下にベースプレートを敷きます。その後、梁中と豪雪柱を共同締めします。

※間仕切壁が付く時は、豪雪柱の取付は不要です。



## 20. 母屋中央・コーナー金具・壁パネルの取付

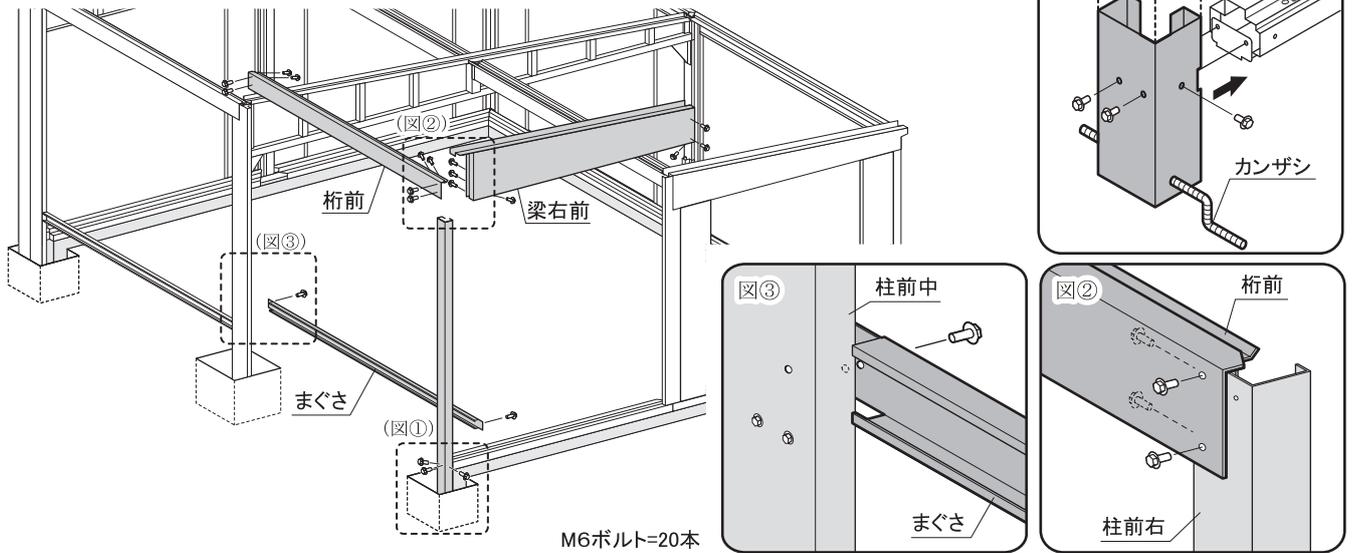
母屋中央を母屋中央取付金具にM6ボルトで取り付け、コーナー金具を柱とはM8ボルトで母屋中央とはM6ボルトで取り付けます。次に壁パネルを●壁パネルの組合せ図(P.7)を参考に柱に取り付けます。



左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

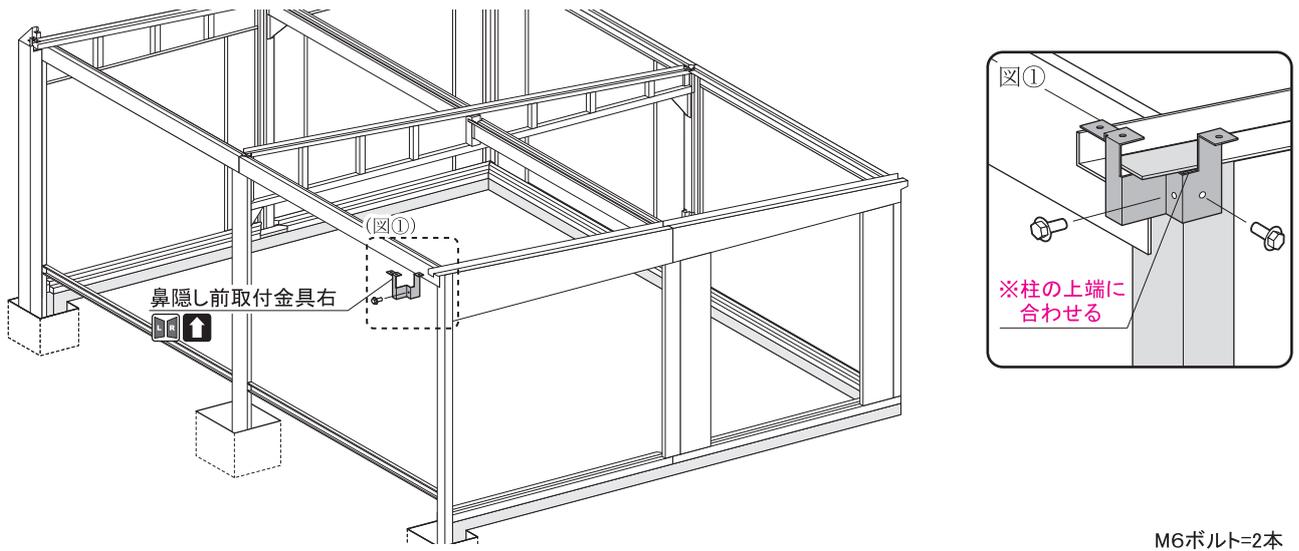
## 21. 柱前・桁前・梁右前・まぐさの取付

柱前右にカンザシを入れ、土台右前に立てM6ボルトで取り付けます。桁前のベロを柱前に引っ掛けM6ボルトで取り付けます。梁右前を柱に引っ掛けM6ボルトで取り付けます。  
 ※まぐさを取り付け、間口寸法を確認します。



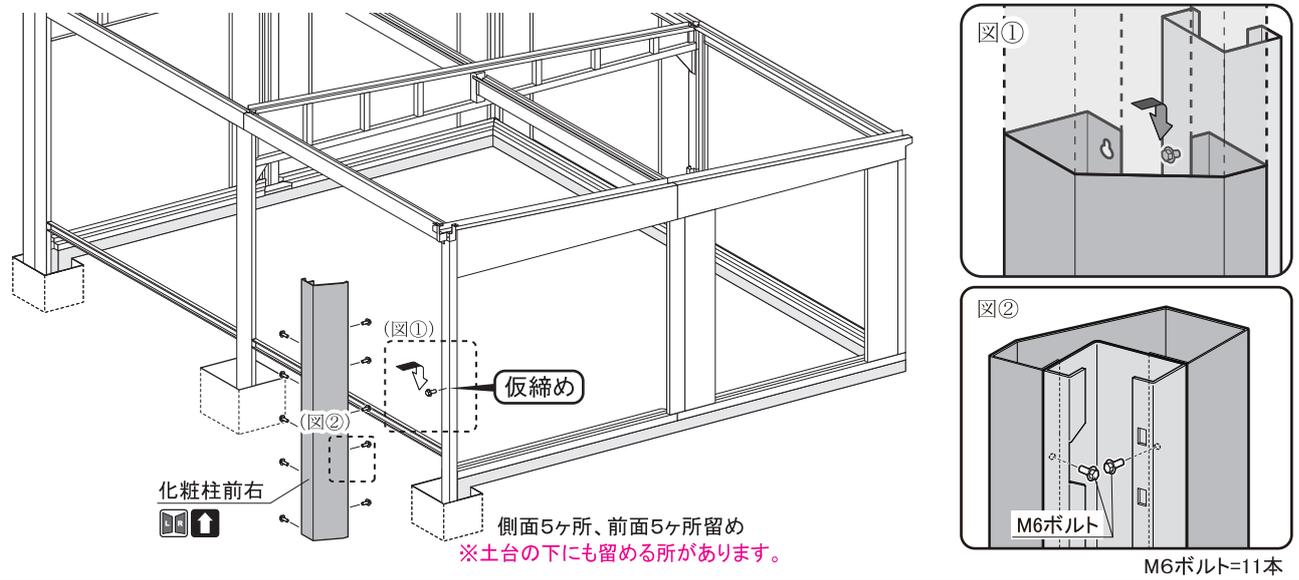
## 22. 鼻隠し前取付金具右の取付

鼻隠し前取付金具右をM6ボルトで取り付けます。



## 23. 化粧柱前右の取付

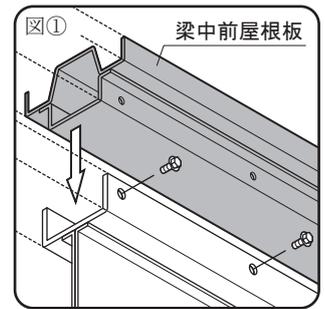
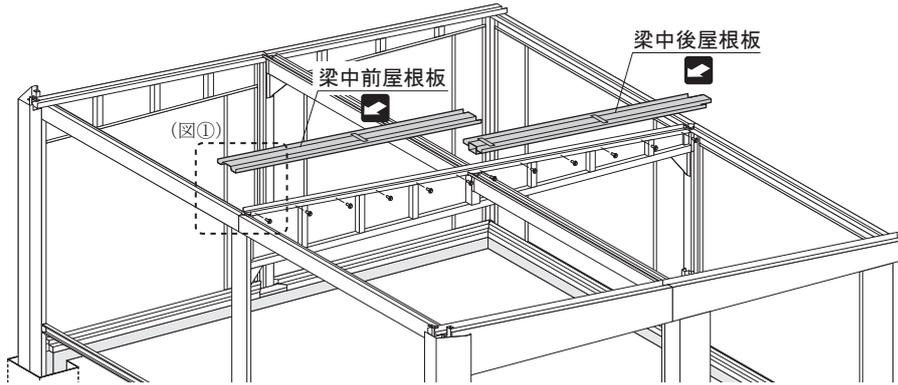
柱前右にM6ボルトを仮締めし、そこに化粧柱前右を引っ掛けてからM6ボルトで取り付けます。



左右の向きに注意してください。
左右共通の部材です。
上下の向きに注意してください。
前後の向きに注意してください。

## 24. 梁中屋根板の取付

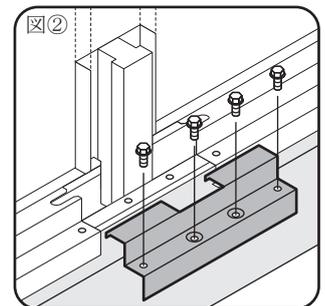
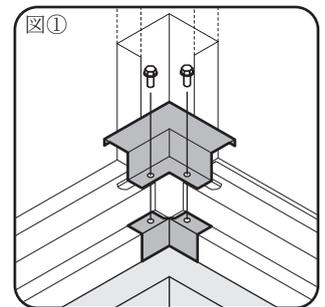
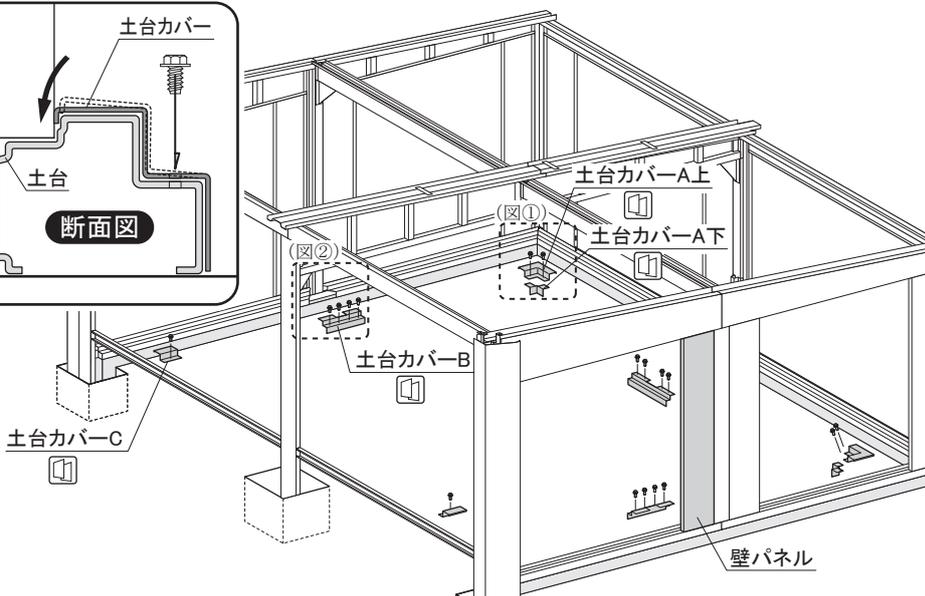
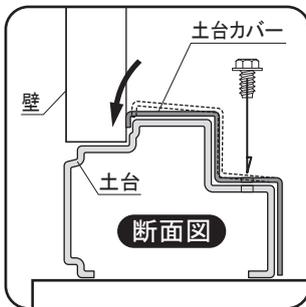
梁中に梁中後屋根板・梁中前屋根板の順にM6ボルトで取り付けます。



奥行5865:M6ボルト=(N-1)×24本  
 奥行6365:M6ボルト=(N-1)×26本

## 25. 土台カバー・壁パネルの取付

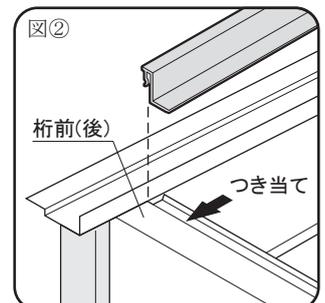
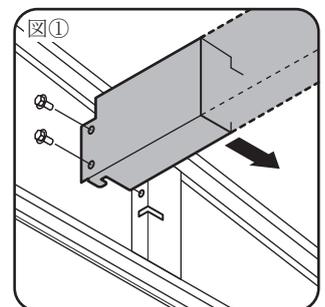
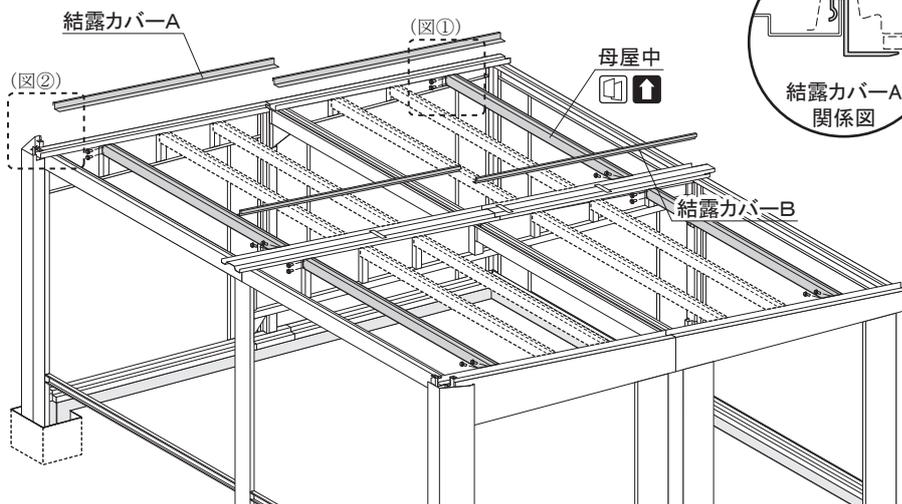
土台カバーをかぶせる部分に取り付いているM6ボルトをはずし、土台カバー-A上・下をコーナー部、土台カバー-Bを柱中部、土台カバー-Cを柱前部にM6ボルトで取り付けます。次に壁パネルを●壁パネルの組合せ図(P.7)を参考に柱に取り付けます。



M6ボルト=(N-1)×2+10本

## 26. 母屋中、結露カバー-A・Bの取付

母屋中を梁左右・梁中に渡し、M6ボルトで取り付けます。  
 (点線部の母屋中では、屋根パネル取付後にセットすると組立が容易になります)  
 結露カバー-A(ひげの長い方)を梁左に、結露カバー-B(ひげの短い方)を梁右にはめ込みます。

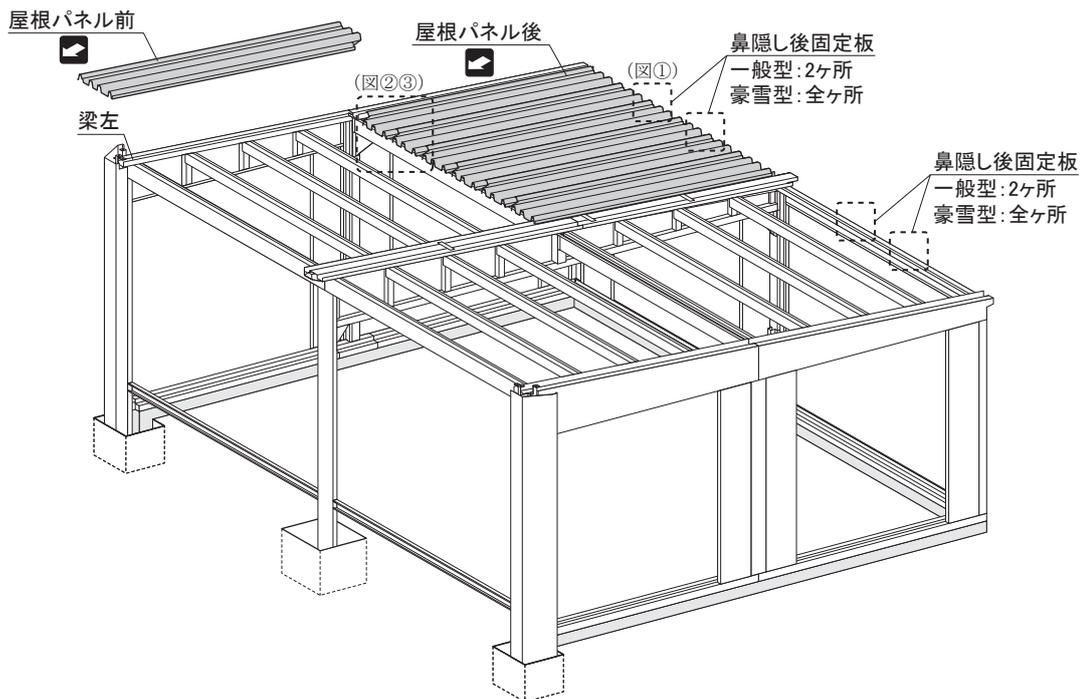
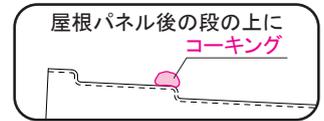
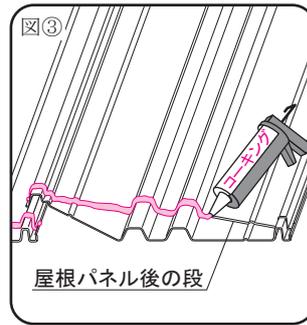
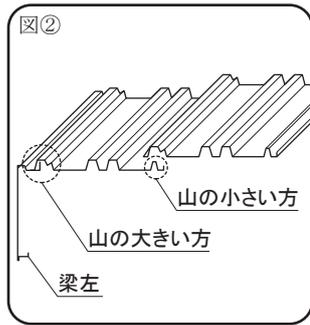
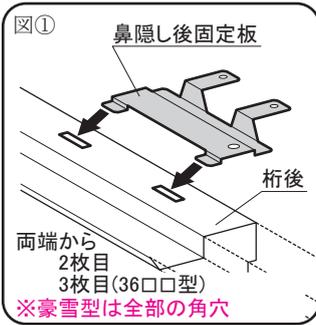


M6ボルト=N×24本

◀ 左右の向きに注意してください。 ◻ 左右共通の部材です。 ⬆ 上下の向きに注意してください。 ▶ 前後の向きに注意してください。

## 27. 屋根パネルの取付

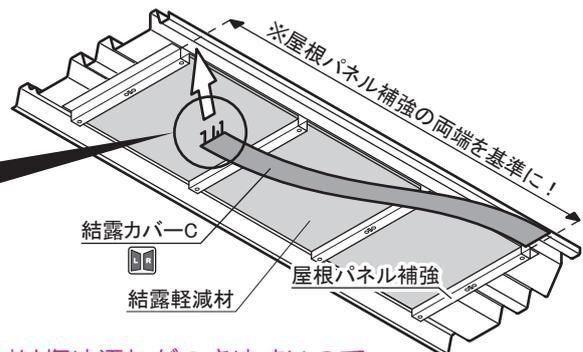
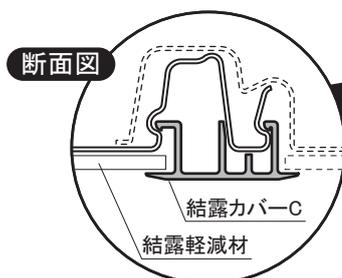
- ① 桁後の両端から屋根2枚目（36□□型は3枚目）の角穴に、鼻隠し後固定板を2個差し込みます。(図①)  
※豪雪型の場合は、全部の角穴に差し込みます。(追加の鼻隠し固定板は別梱)
- ② 屋根パネル後を梁左から順にのせ(図②)、桁後に引き寄せます。  
※屋根パネルに結露カバーCを取り付けてからのせます。(図④)
- ③ 屋根パネル後をM6ボルトで桁後・母屋中央に取り付け、  
屋根パネル後の段の上にコーキングを打ちます。(図③)
- ④ 屋根パネル前を梁左から順にのせ(図②)、桁前に引き寄せます。M6ボルトで桁前・母屋中央に取り付けます。
- ⑤ 残りの母屋中を取り付け、屋根パネルをM6ボルトで取り付けます。



図④

### 結露カバーCの取付

屋根パネルの山の小さい方に、結露カバーCをはめ込みます。

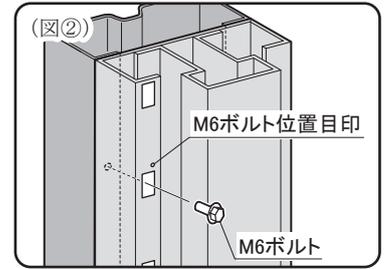
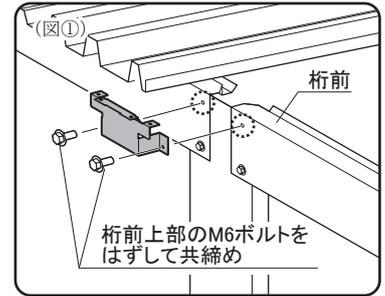
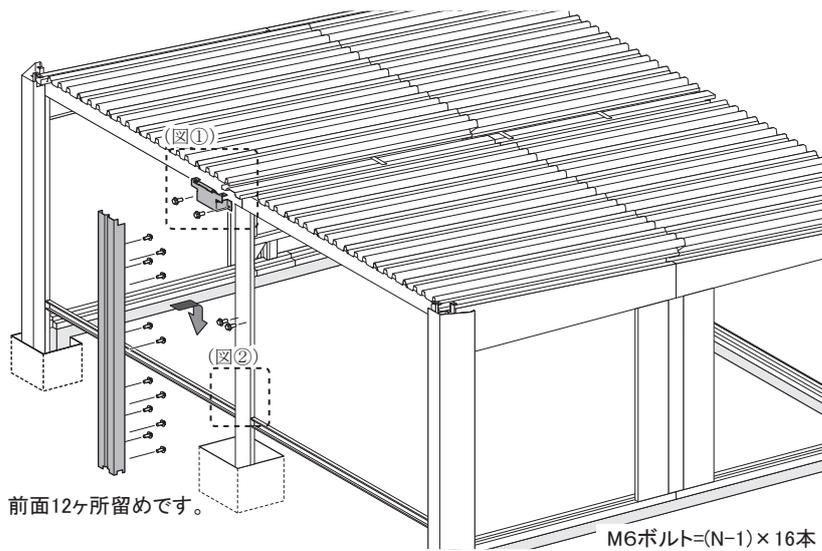


※結露軽減材は傷や汚れがつきやすいので、指等で強く押さええないよう扱いには十分ご注意ください。

左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

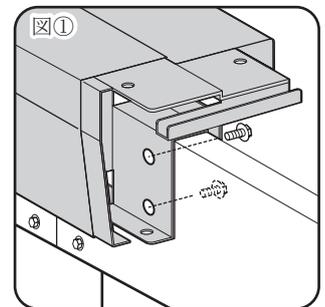
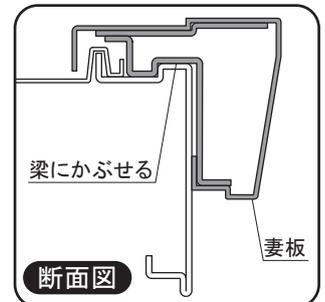
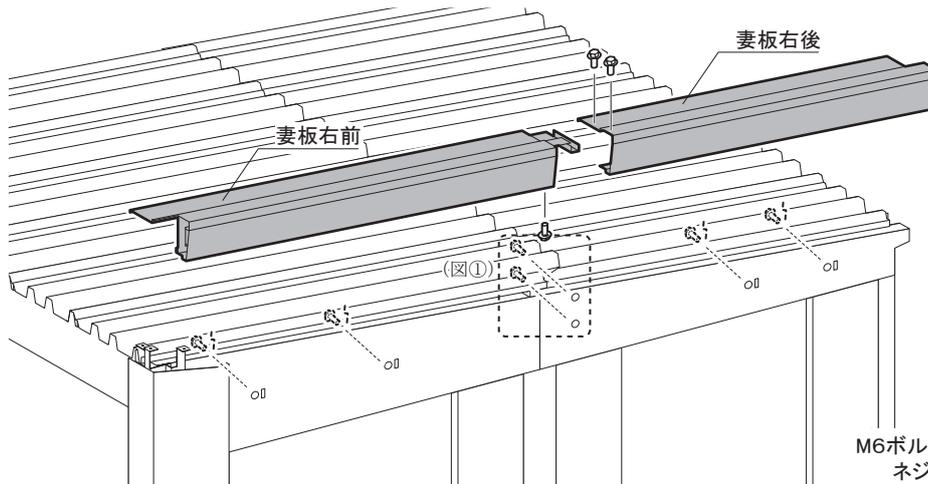
## 28.化粧柱前中・鼻隠し前取付金具の取付

桁前の上側のM6ボルトをはずし、鼻隠し取付金具中を共締めします。次に化粧柱前中をM6ボルトで取り付けます。（柱前中にM6ボルト取付位置の目印があります。）



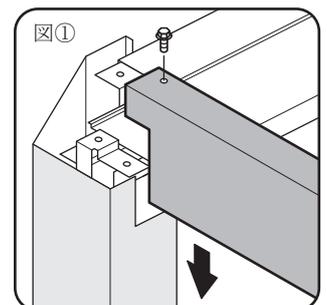
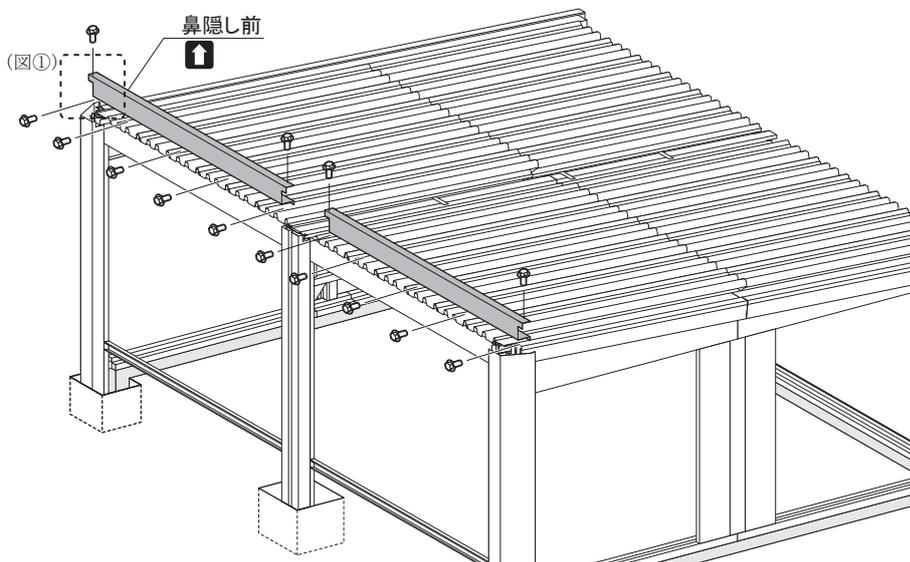
## 29.妻板の取付

妻板右前を梁右前にかぶせ、庫内側からM6ボルトとネジ板で固定します。次に妻板右後を梁右後にかぶせ妻板前とM6ボルトで取り付け、庫内側からM6ボルトとネジ板で固定します。  
 ※妻板左も同様に取り付けます。



## 30.鼻隠し前の取付

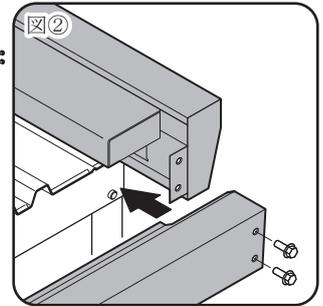
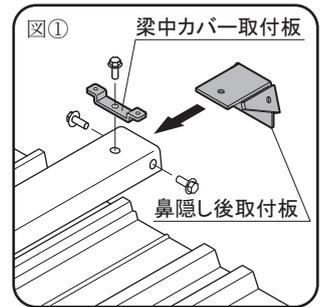
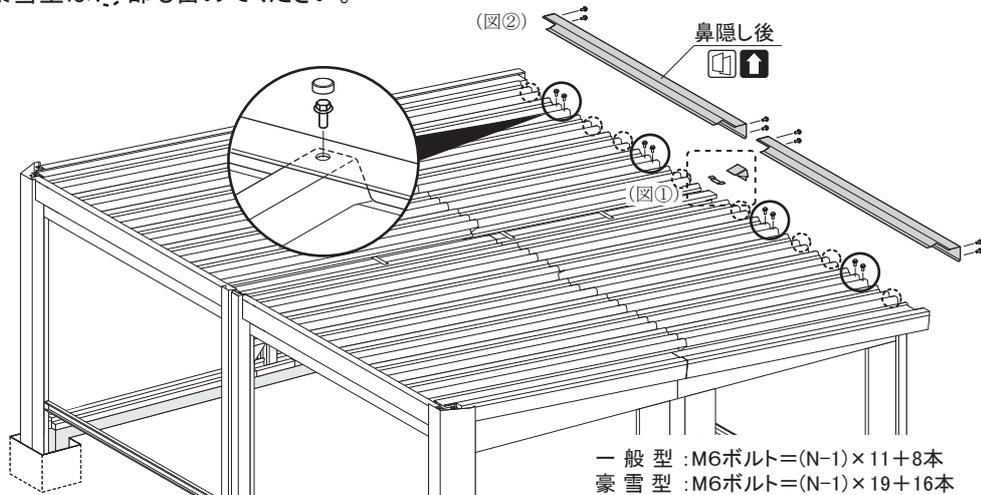
鼻隠し前をM6ボルトで取り付けます。



M6ボルト=N×7本

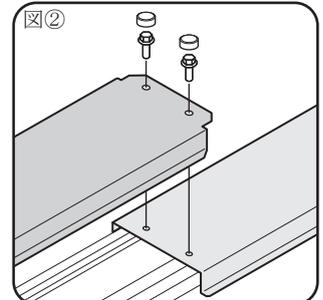
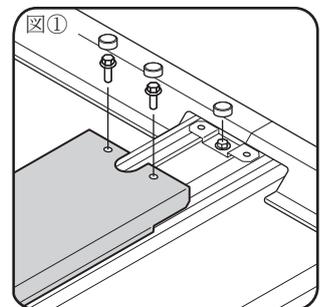
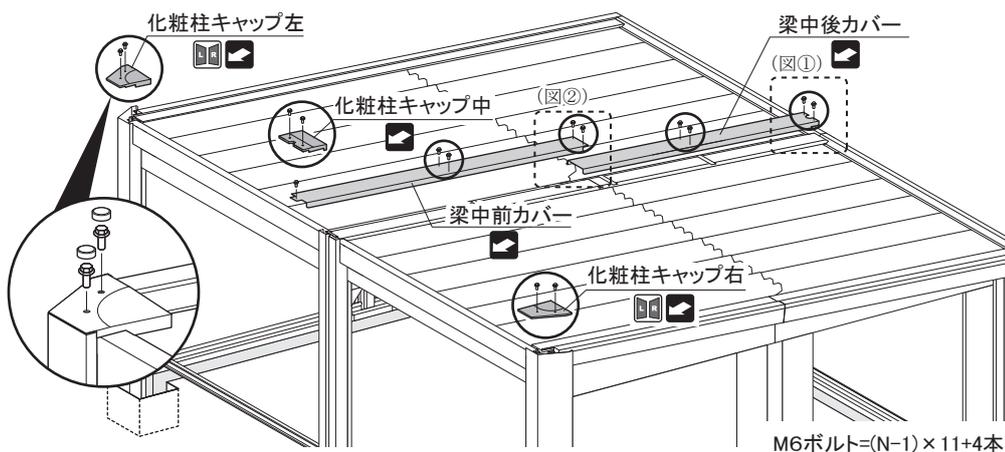
### 31. 鼻隠し後の取付

梁中後屋根板に、鼻隠し後取付板と梁中カバー取付板をM6ボルトで取り付けます。  
 鼻隠し後を屋根にかぶせ、下図のように鼻隠し後固定板にM6ボルトで取り付け、  
 後面のM6ボルトを取り付けます。  
 ※○印のボルトにボルトキャップを取り付けてください。  
 ※豪雪型は、部も留めてください。



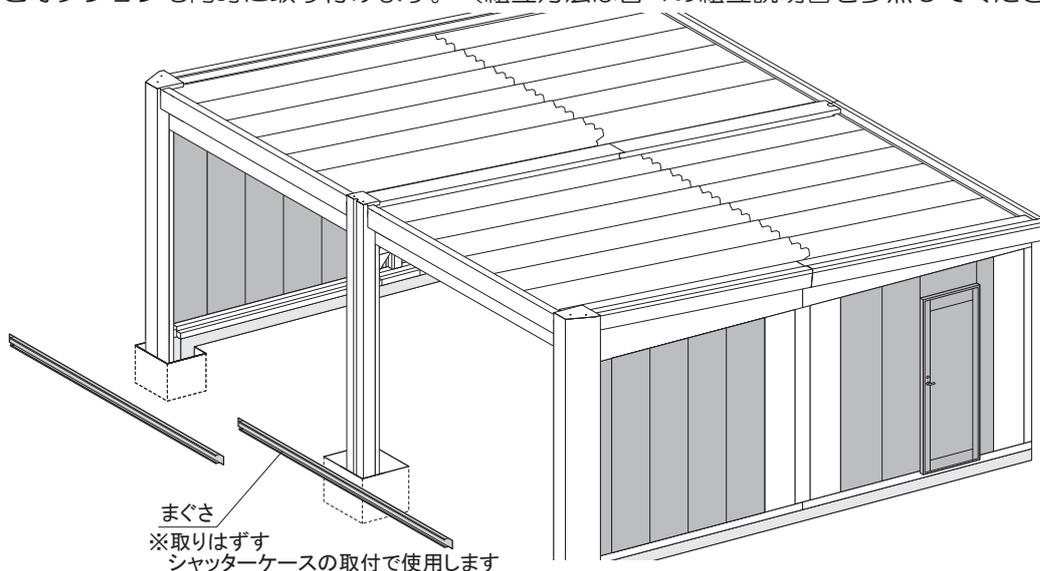
### 32. 梁中カバー・化粧柱キャップ右・左・中の取付

梁中後カバーをM6ボルトで取り付け、梁中前カバーをM6ボルトで取り付けます。  
 次に化粧柱キャップをM6ボルトで取り付けます。  
 ※○印のボルトにボルトキャップを取り付けてください。  
 ※化粧柱キャップの穴が合わない場合は、化粧柱のボルトをゆるめて調整してください。



### 33. 壁パネルの取付

まぐさをはずします。次に壁パネルと支柱NNを●壁パネルの組合せ図(P.7)を参照し、すべて取り付けます。  
 框ドアとオプションも同時に取り付けます。(組立方法は各々の組立説明書を参照してください。)

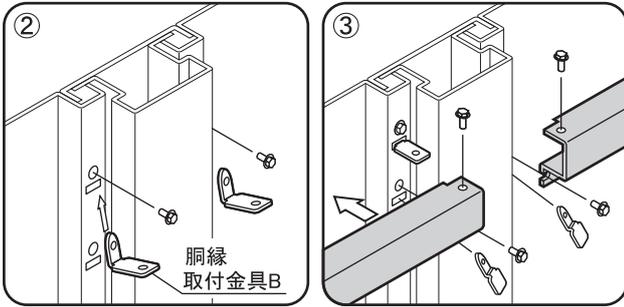


左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

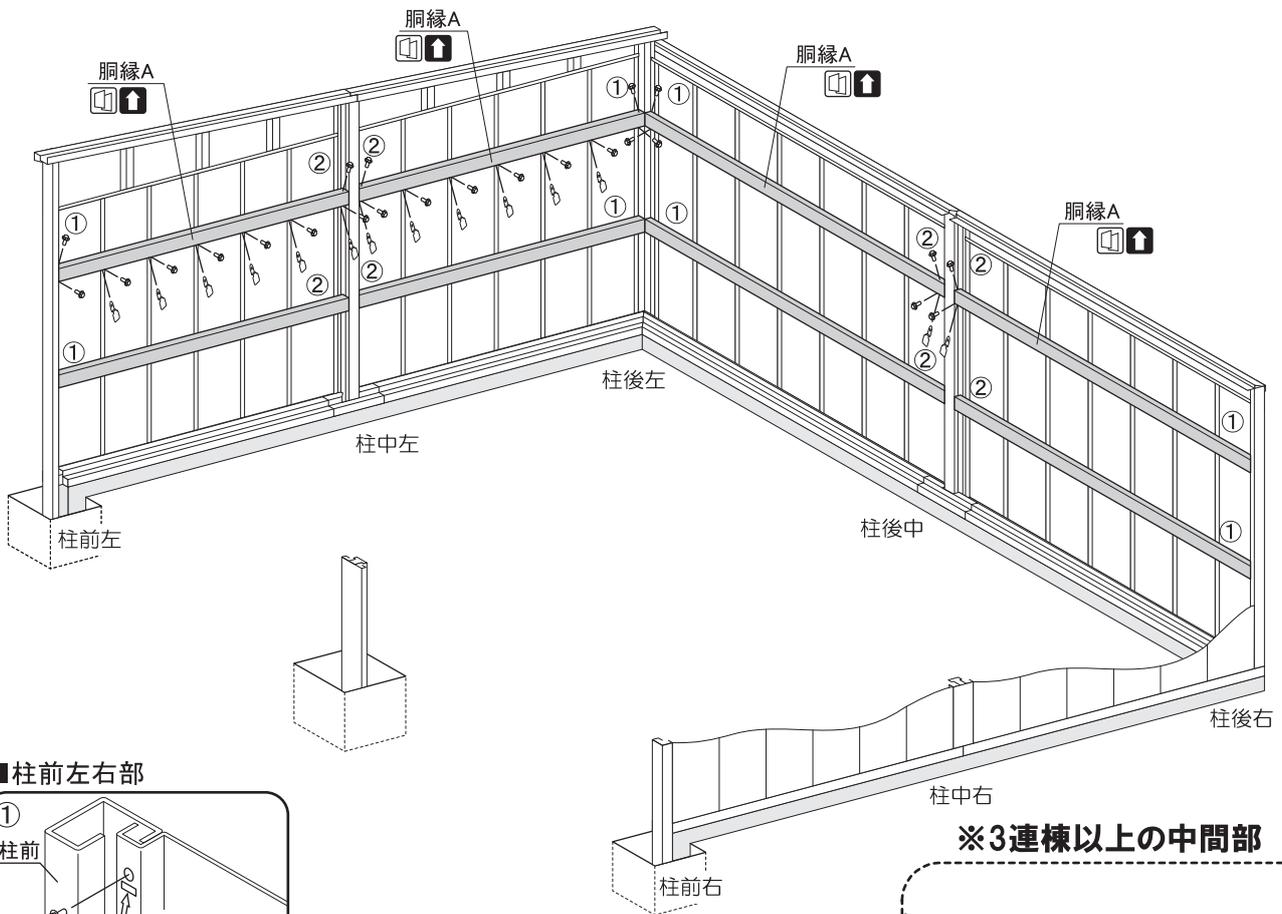
### 34. 胴縁の取付 《Jタイプのみ》

- ① 胴縁取付金具ANを柱後・柱前左右の壁パネルにM6ボルトとネジ板で取り付けます。
  - ② 胴縁取付金具Bを柱中左右・柱後中の壁パネルにM6ボルトで取り付けます。
  - ③ 壁パネルの枚数に合った長さの胴縁A【胴縁C】を胴縁取付金具ANとはM6ボルトで、胴縁取付金具B・壁パネルとはM6ボルトとネジ板で取り付けます。
- ※ 框ドアとオプションは、各々の組立説明書を参照して取り付けてください。

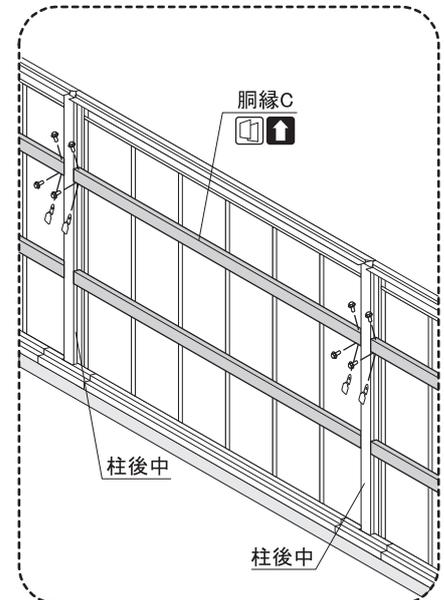
#### ■ 柱中左右・柱後中部



#### ■ 柱後左右部



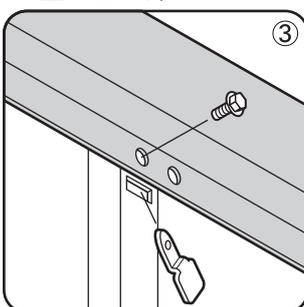
#### ※ 3連棟以上の中間部



#### ■ 柱前左右部



#### ■ 壁パネル部



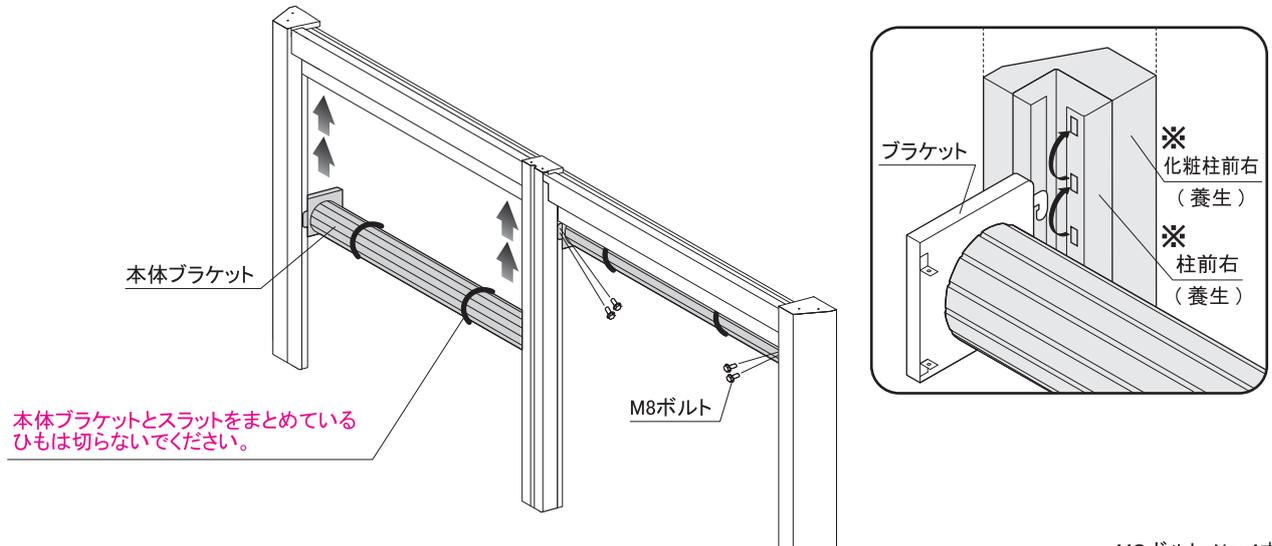
## 35. シャッターの取付

柱前左右中の建ちを調整してから、シャッターの取り付けを開始してください。柱の傾きが5mm以内になるように、下げ振りをを用いて必ず寸法の確認をしてください。

- ※鋼材切断端部が露出している部品があります。組立時は必ず手袋等の保護具を着用してください。
- ※ブラケットと柱・化粧柱が接触して傷付かないように、養生してください。

### 35-1 本体ブラケットの取付

水切スラット(アルミ製)をはずします。次にブラケットのツメを柱前の角穴に入れ、左右交互に持ち上げます。  
 ※安全のため、ツメが角穴に入ったのを確認しながら徐々に持ち上げてください。  
 ツメが1番上の角穴に入ったら、ブラケットを柱にM8ボルトで固定します。



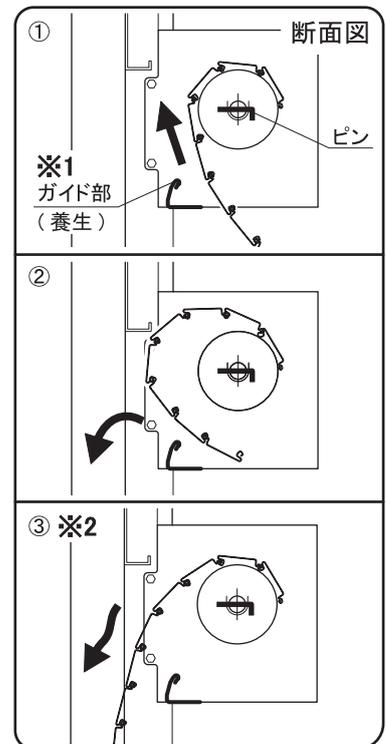
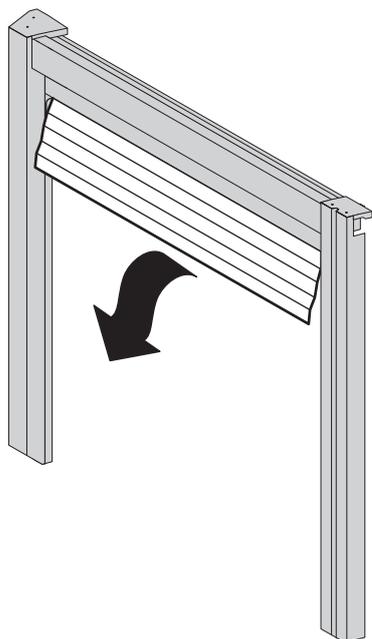
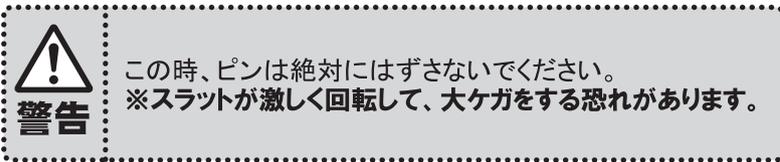
本体ブラケットとスラットをまとめているひもは切らないでください。

M8ボルト=N×4本

### 35-2 スラットの取り出し

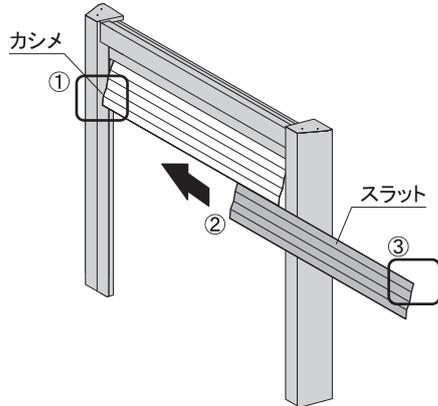
ひもを切断し、本体ブラケットに巻きついているスラットを屋外側に取り出します。

- ※1 ガイド部とスラットが接触して傷付かないようガイド部を養生してください。
- ※2 ③の時にピンが庫内側から見えることを確認してください。この時にピンが見えないとシャッターの組立ができなくなります。

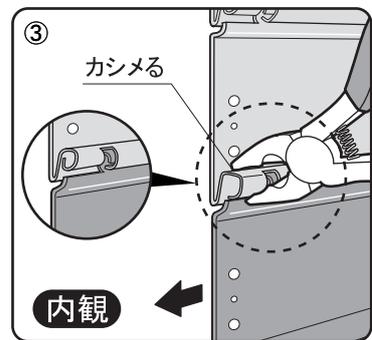
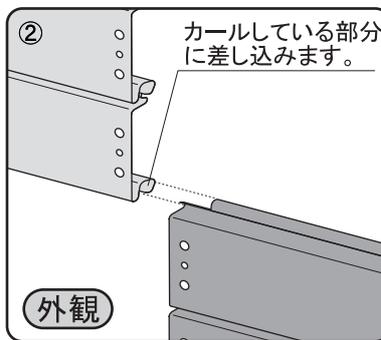
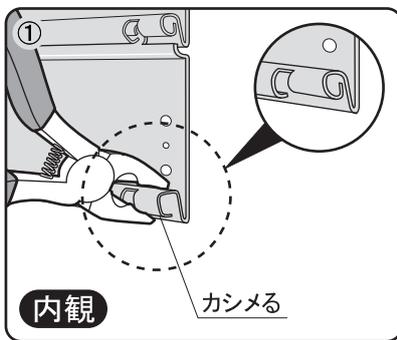


### 35-3スラットの取付

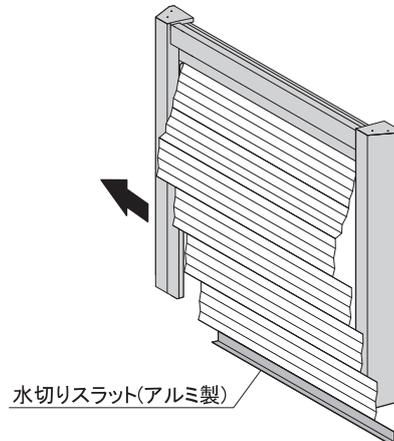
- ①スラットの片側をプライヤー等でカシメます。
  - ②カシメていないほうからスラットを差し込み、スラットを差し込み終わったらスラットをカシメます。
  - ③シャッターが左右にずれないか確認してください。
- ※カシメを忘れると、シャッターの使用中にスラットが片寄り、開閉に支障が出る等の不具合の原因になります。



**注意** この時、柱とスラットが接触して傷付かないように養生してください。

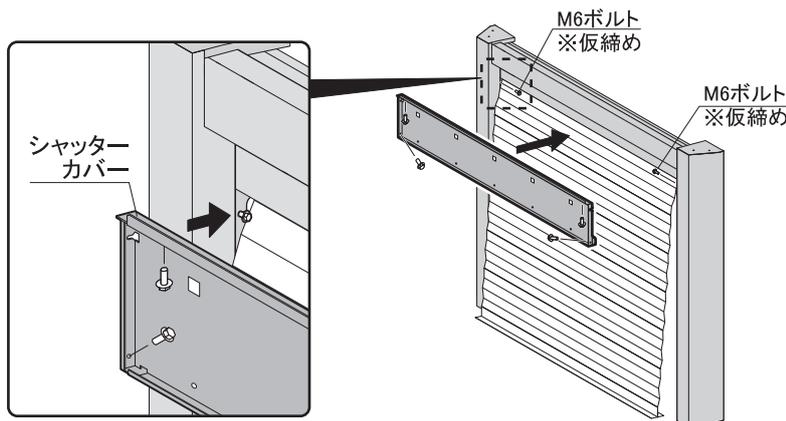


- ④残りのスラットも同様に取り付け、最後に水切スラットを取り付けます。



### 35-4シャッターカバーの取付(仮固定)

M6ボルトを柱に仮締めし、そこにシャッターカバーを引っかけてからM6ボルトで取り付けます。

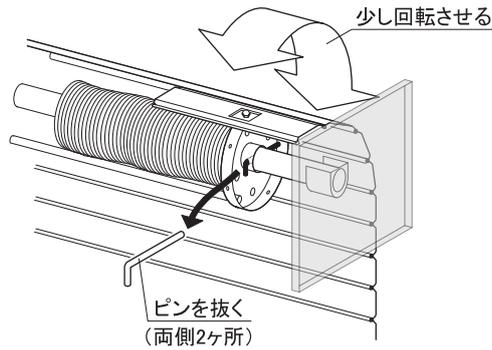


**注意** シャッターカバーを付けないと、スラット巻上げ時にアテとなるものがない為危険です。

M6ボルト=6本

### 35-5ピンの取りはずし

左右両側2ヶ所の黄色の「 警告」シールをはがし、その下にあるピンを抜きます。ピンは、L字形状です。  
 ※ピンが抜けにくい場合は、スラットを少し回転させながらピンがゆるむポイントを探ってください。

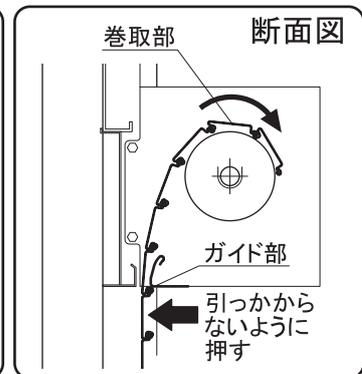
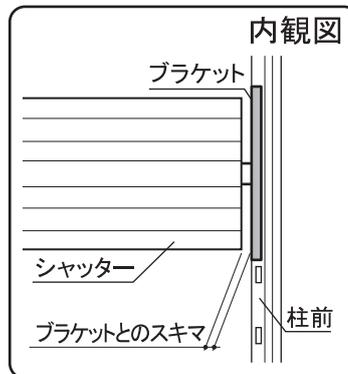
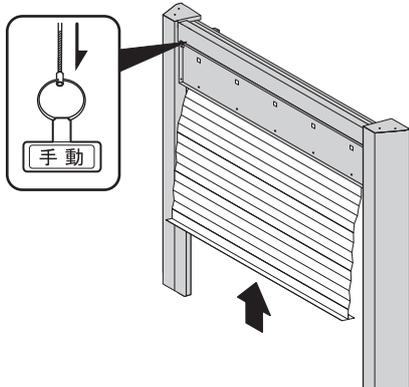


その他の割りピン等は絶対にはずさないでください。  
 ※スラットが横ずれして開閉できなくなることがあります。

### 35-6シャッターの巻き上げ

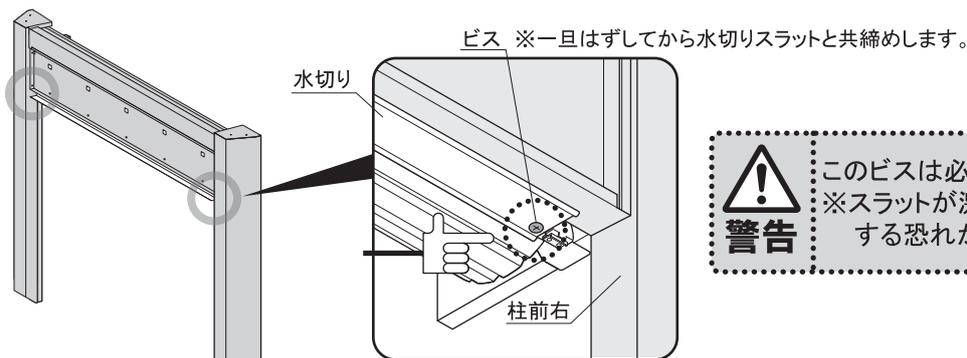
手動切り替えをし、巻取部を手で回しながらゆっくりとシャッターを巻上げます。この時、ガイド部にスラットが引っかかるので、内側から押しながら巻き上げてください。

※巻き上げるに従いバネによる巻上げが強くなりますので、かならず二人以上で作業してください。  
 ※シャッターが片寄らないように(シャッターとブラケットとのスキマが左右均一になるように)木片等で調整しながら巻き上げてください。(シャッターが片寄せると開閉に支障が出る等、不具合の原因となります。)



### 35-7シャッターの固定

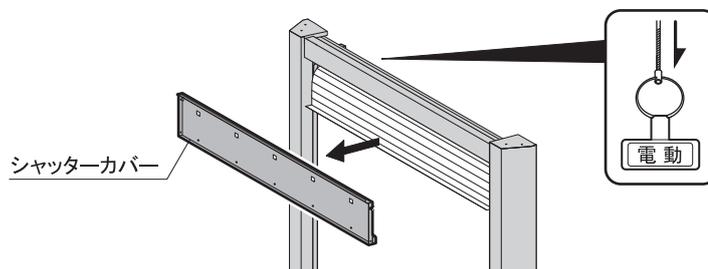
ブラケットに止めてあるビスを一旦はずし、水切りスラットをブラケットに固定します。  
 ※ビスは両端部にあります。必ず両側のビスを固定しなおしてください。



このビスは必ず取り付けてください。  
 ※スラットが激しく回転して大ケガをする恐れがあります。

### 35-8シャッターカバー取り外し

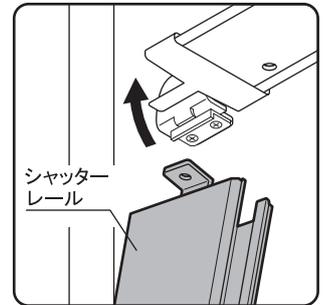
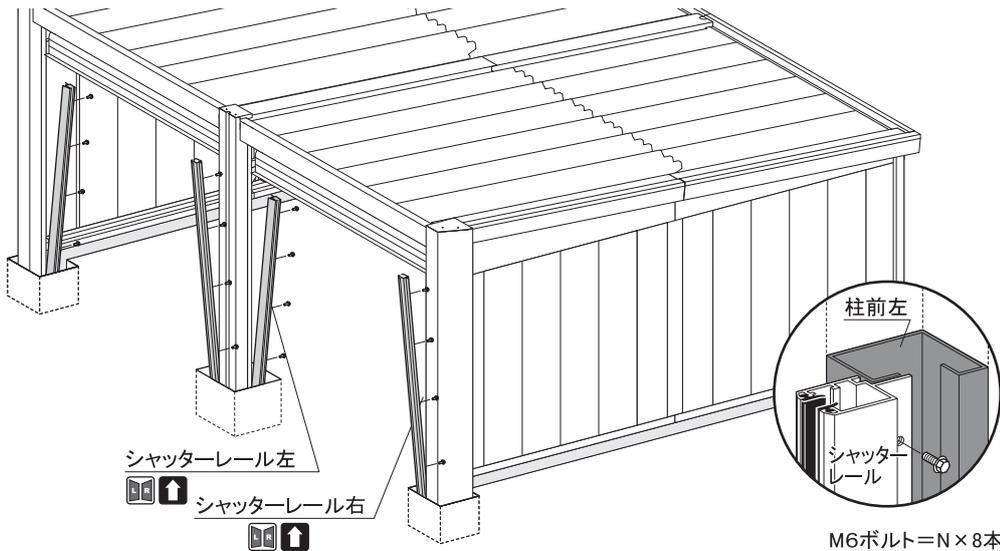
電動切り替えをします。組立順序の関係上、一旦シャッターカバーを取りはずします。  
 ※必ず35-7でビスで水切スラットを固定していることを確認した上でシャッターカバーを取りはずしてください。



左右の向きに注意してください。
 左右共通の部材です。
 上下の向きに注意してください。
 前後の向きに注意してください。

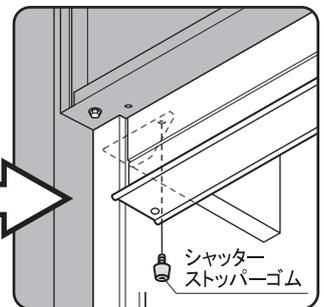
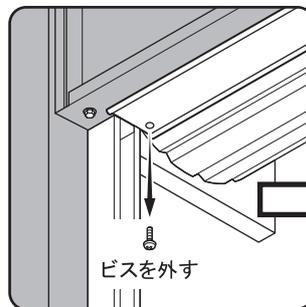
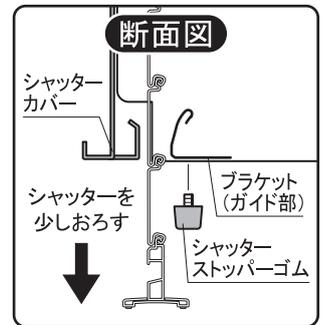
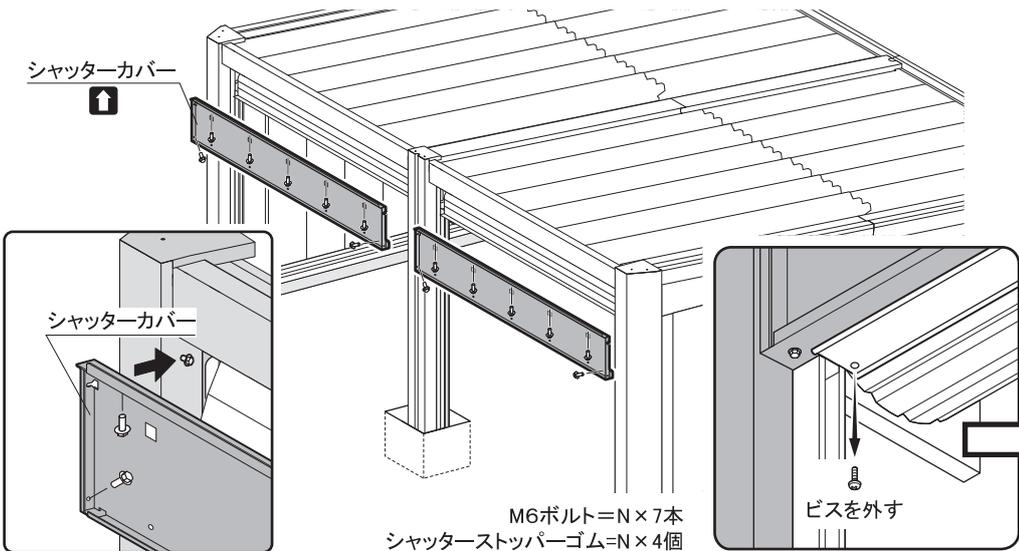
### 36. シャッターレール・レール止め板の取付

シャッターレール上部にレール止め板をたたき込みます。次にシャッターレールを柱前に内側からM6ボルトで取り付けます。



### 37. シャッターカバーの取付

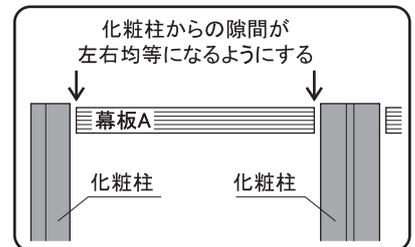
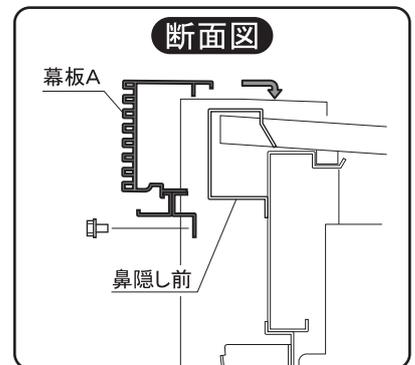
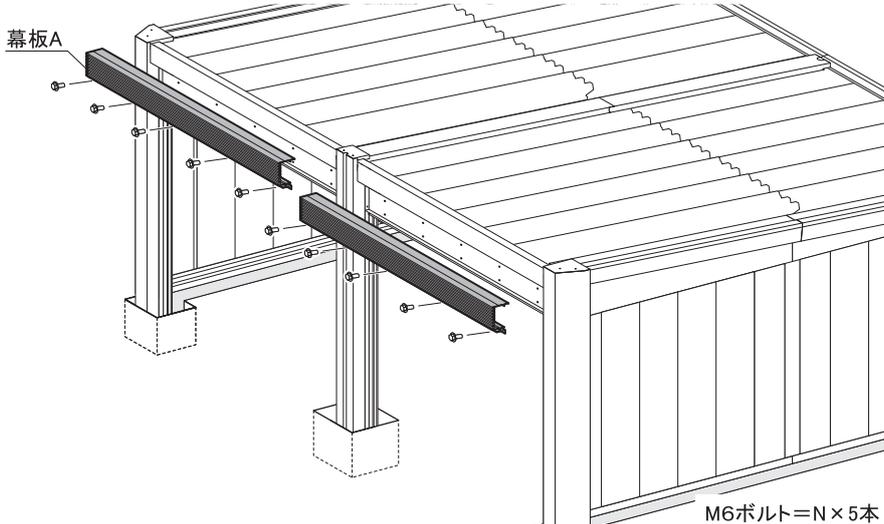
シャッターカバーをM6ボルトで取り付け、シャッターの水切りスラットを留めているビスをはずします。次にブラケットのガイド部にシャッターストッパーゴムを取り付けます。



### 38. 幕板の取付

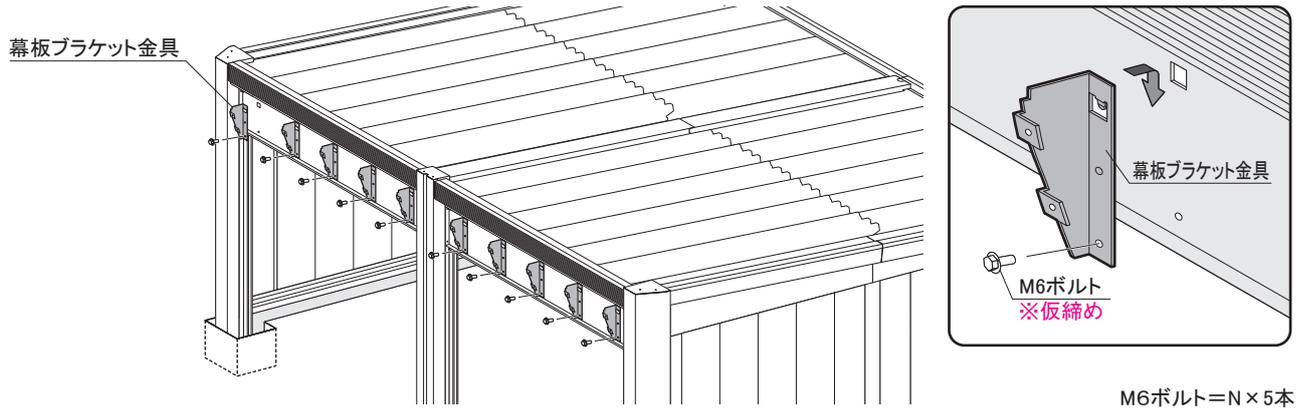
#### 38-1. 幕板Aの取付

幕板Aを鼻隠し前にのせ、M6ボルトで桁前に取り付けます



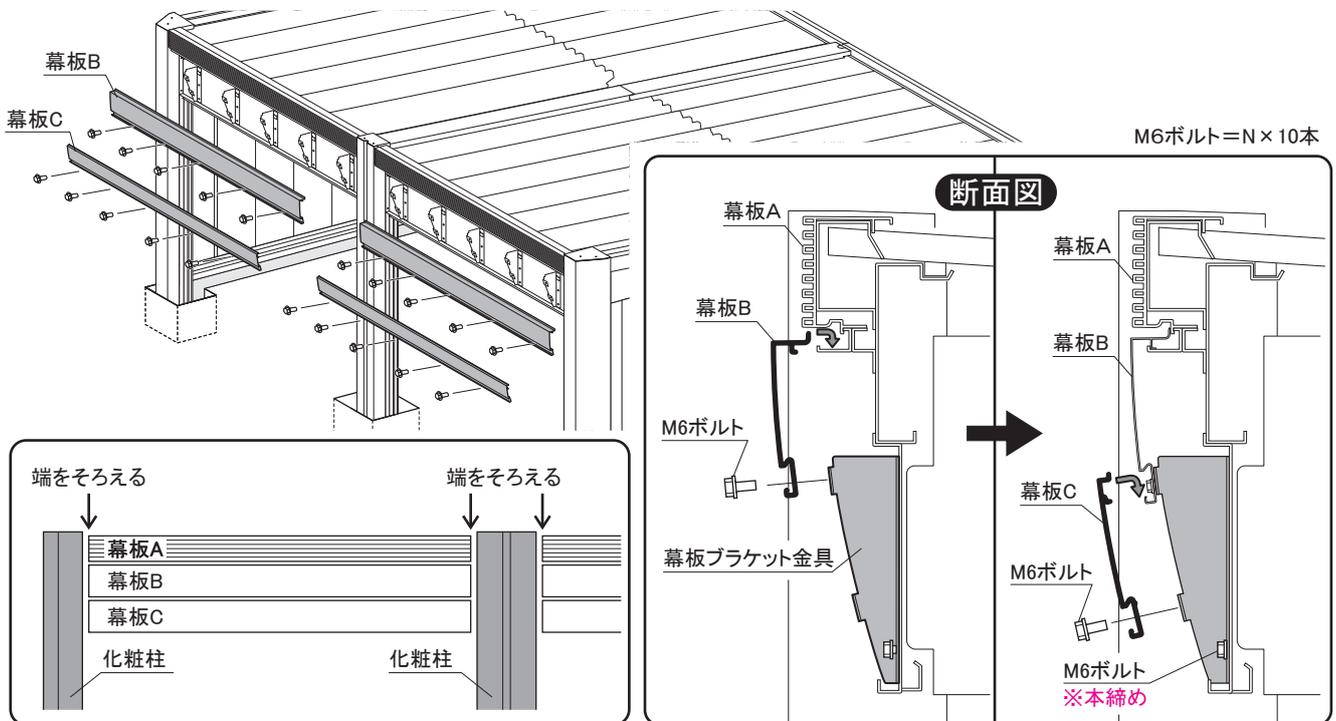
### 38-2 幕板ブラケット金具の取付

幕板ブラケット金具をシャッターカバーに引っ掛け、M6ボルトで**仮締め**します。



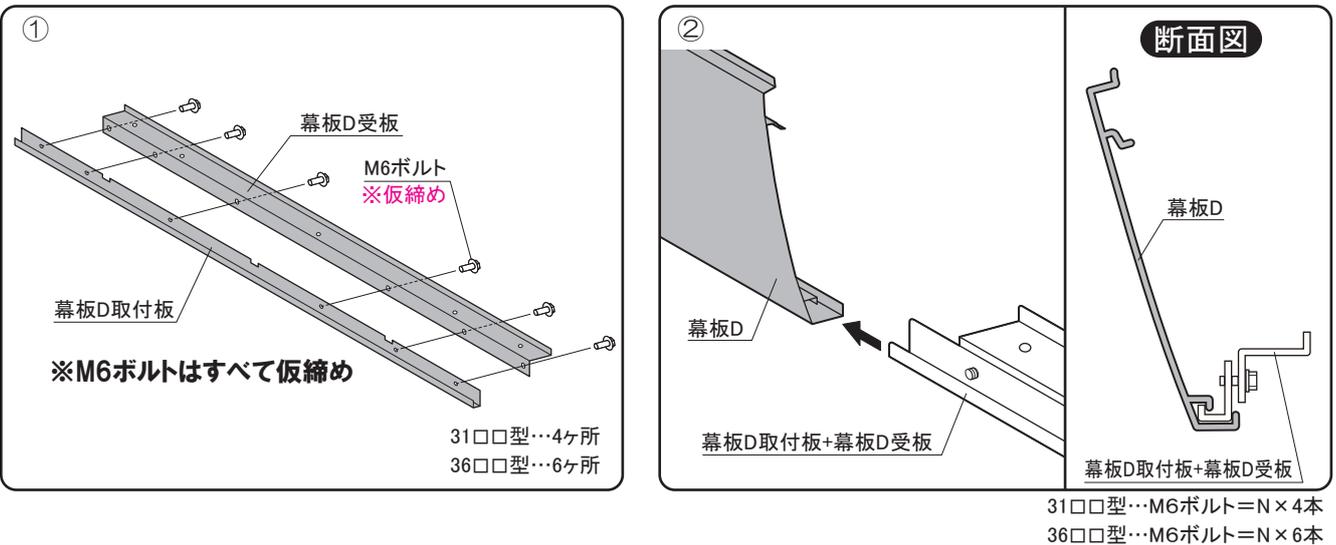
### 38-3 幕板B・Cの取付

幕板Bを幕板Aに引っ掛け、幕板Aの端と位置を合わせてから、幕板ブラケット金具にM6ボルトで取り付けます。次に幕板Cを幕板Bに引っ掛け、幕板A、Bの端と位置を合わせてから、幕板ブラケット金具にM6ボルトで取り付けます。**38-2**で幕板ブラケット金具に仮締めしたM6ボルトを**本締め**します。



### 38-4 幕板D前工程

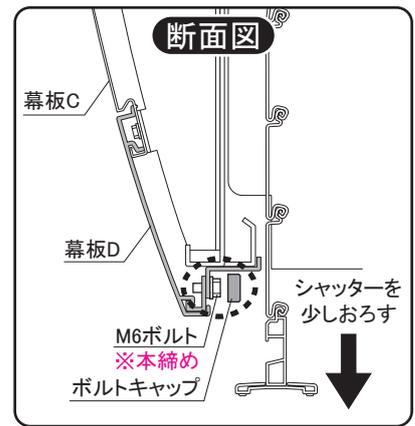
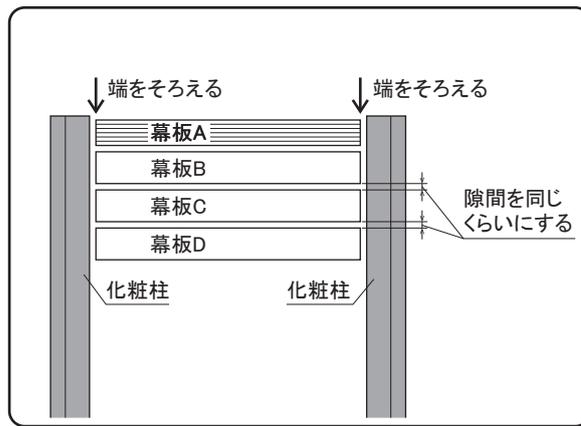
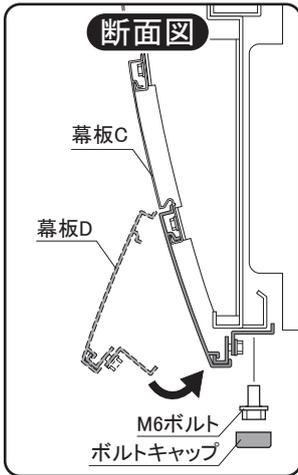
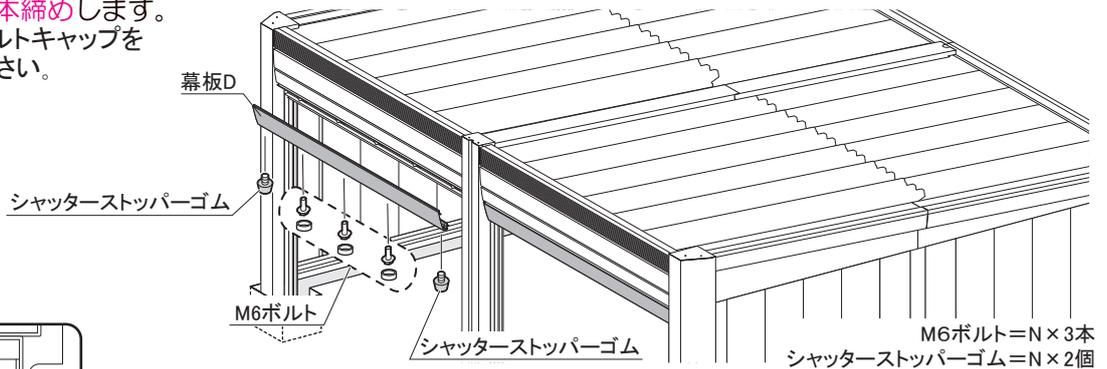
- ① 幕板D受板と幕板D取付板をM6ボルトで**仮締め**します。
- ② 幕板D受板と幕板D取付板を合わせたものを幕板Dの溝に差し込みます。



◀ 左右の向きに注意してください。 ◻ 左右共通の部材です。 ⬆ 上下の向きに注意してください。 ▶ 前後の向きに注意してください。

### 38-5幕板Dの取付

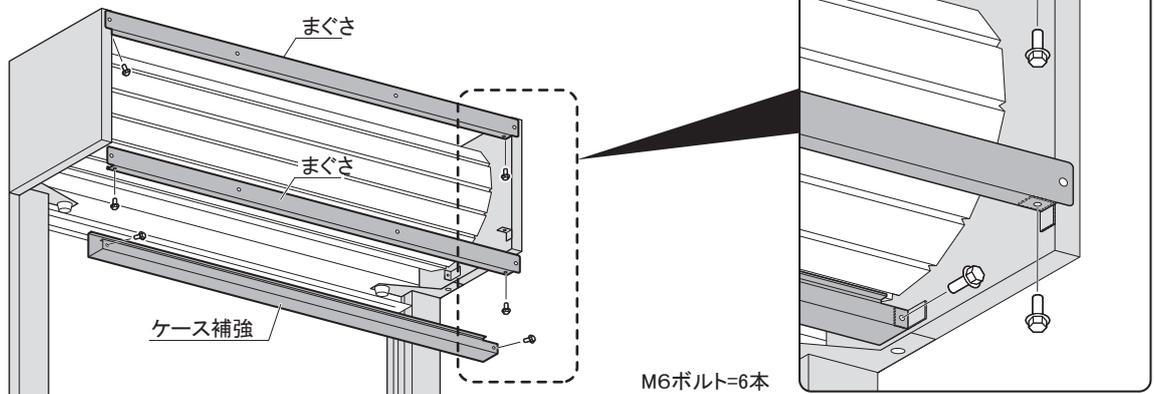
幕板Dを幕板Cに引っ掛け、幕板A、B、Cと端の位置を合わせてからシャッターカバーにM6ボルトとシャッターストッパーゴムで取り付けます。(両端：シャッターストッパーゴム、中央3ヶ所：M6ボルト)  
次に幕板C、Dの隙間が幕板B、Cの隙間と同じくらいになるように調整し、38-4で仮締めしたM6ボルトをスパナなどで**本締め**します。  
※M6ボルトにボルトキャップを取り付けてください。



### 39.シャッターケースの取付

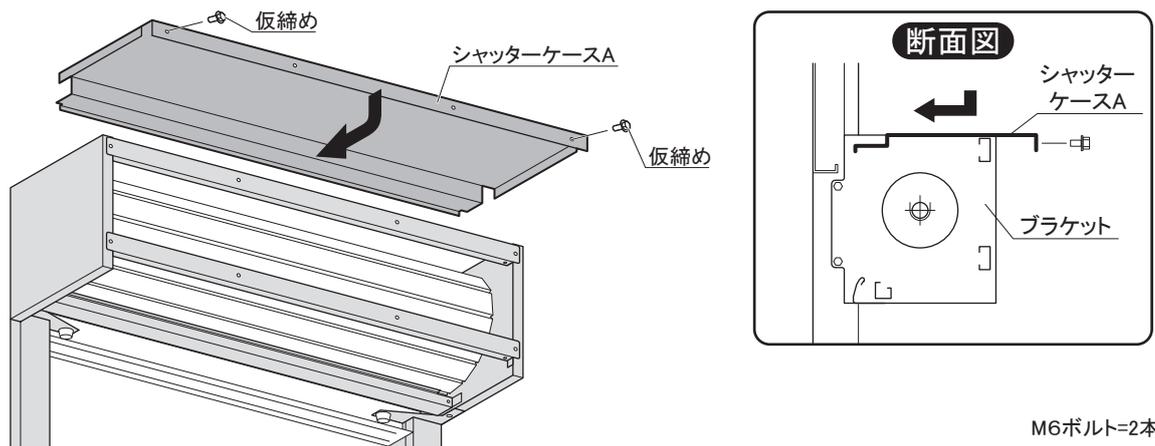
#### 39-1まぐさ、ケース補強の取付

まぐさとケース補強をブラケットに取り付けます。



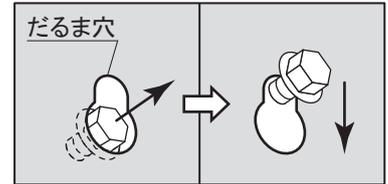
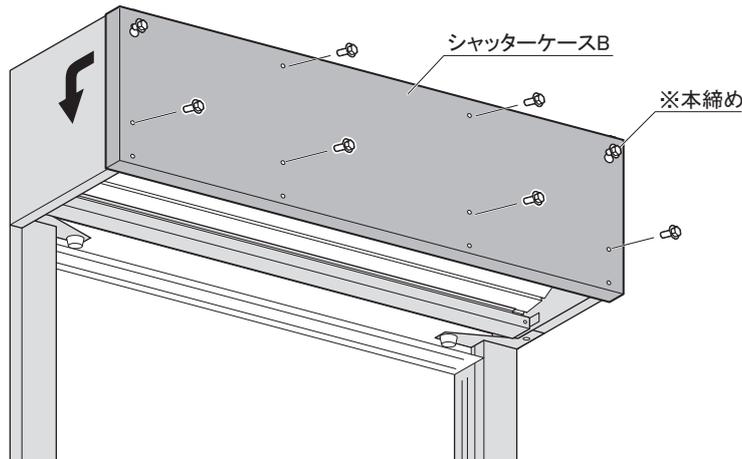
#### 39-2シャッターケースAの取付

シャッターケースAをブラケットの上ののせ、ボルトを仮締めします。



### 39-3シャッターケースBの取付

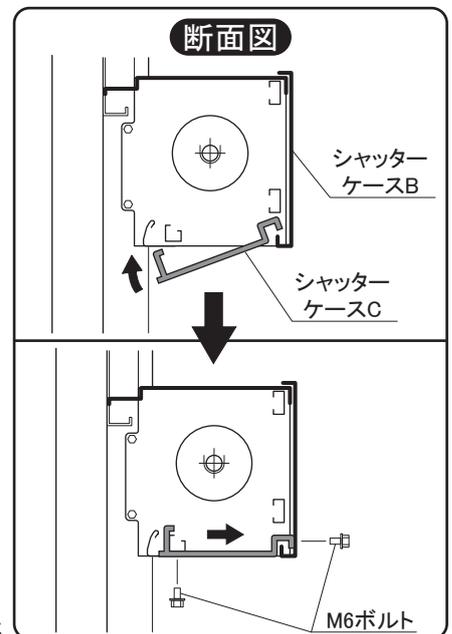
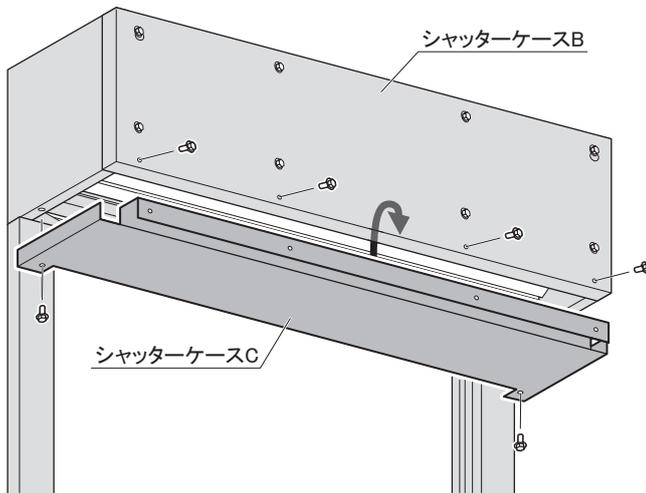
仮締めしたボルトにシャッターケースBのだるま穴を引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。



M6ボルト=6本

### 39-4シャッターケースCの取付

シャッターケースCのコの字部分をシャッターケースBに引っ掛け、M6ボルトで取り付けます。



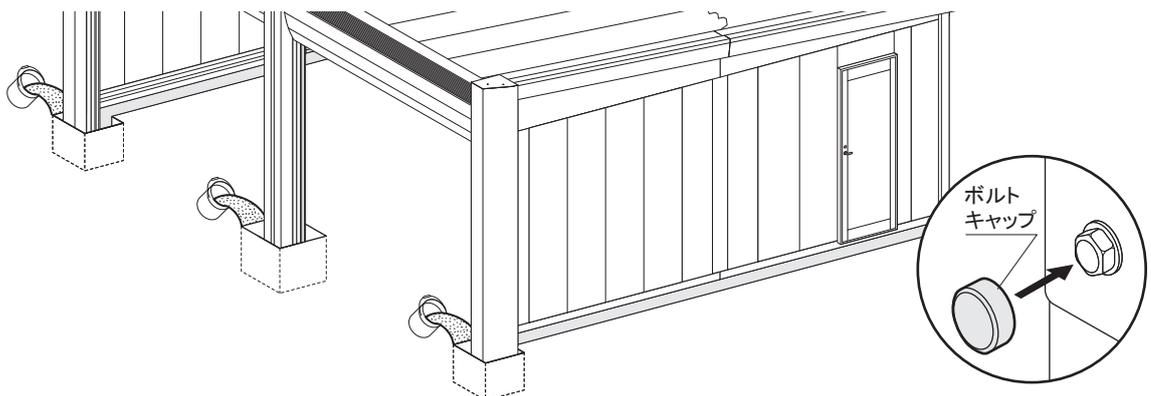
M6ボルト=6本

## 40.内壁・天井の取付(Type Bの場合)

別組立説明書を参照し、内壁と天井を取り付けてください。  
 内壁と天井の両方取り付ける場合は、必ず**内壁→天井**の順番で取り付けてください。

## 41.ボルトキャップの取付・柱の埋込・保管ケースの貼付【完成】

外部のM6ボルトの頭にボルトキャップを取り付けます。シャッター梱包内のチェックリストを用いて、間口寸法と柱前の垂直・通り(豪雪型の場合は豪雪柱の建ち)を確認し、コンクリートを打ち込みます。最後に保証書・取扱説明書・組立説明書を保管ケースに入れて、庫内シャッター横の壁パネル面(高さ1.5mくらい)に貼り付けてください。



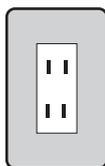
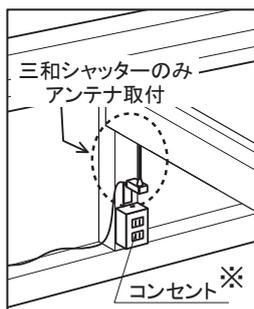
# ●GRN・DR コンセント位置について

施工完了後、下図の位置に100Vコンセントを取り付けてください。



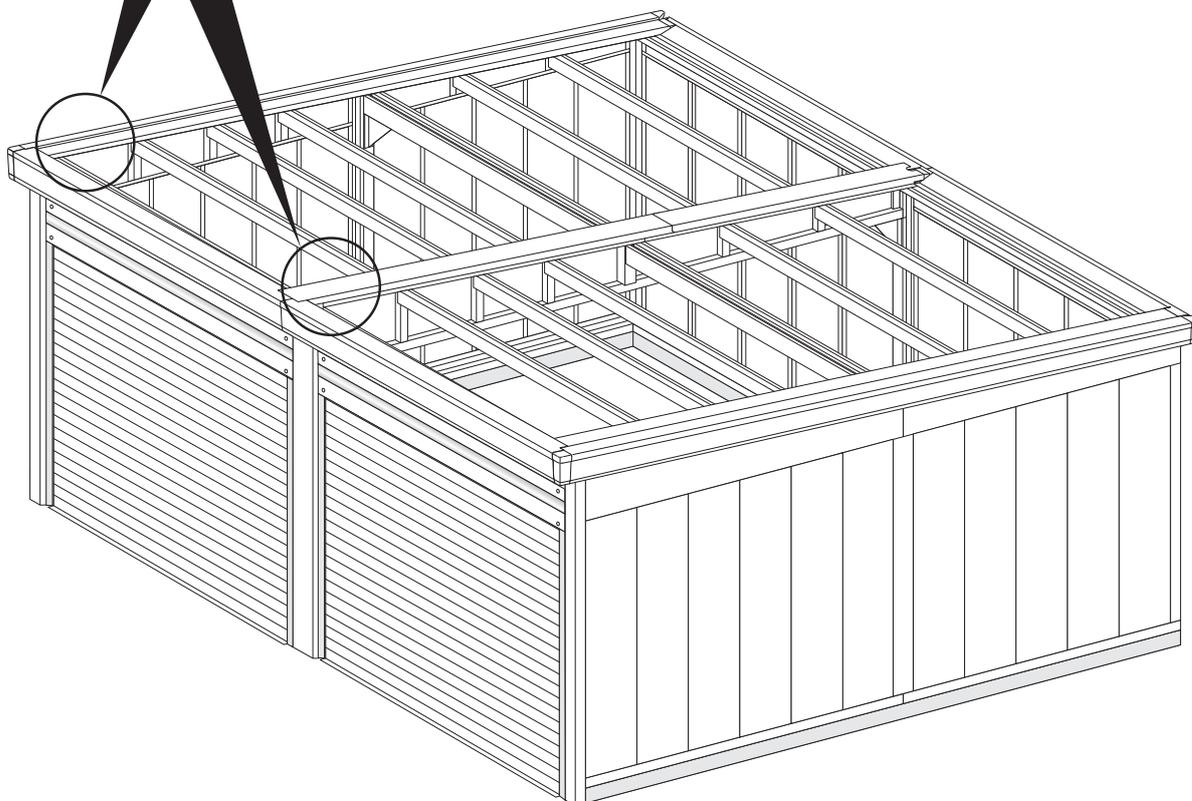
リモコンシャッター1面に対して2口コンセントを1ヵ所設けてください。  
※コンセントは必ずリモコンシャッターの左側(外観から見て)に設置してください。

## ■コンセント位置



電 源: AC100V  
定格出力: 125Wまたは150W  
※ブレーカーは  
10Aとしてください。

100V・2口用



※コンセントは結露等で漏電する恐れがあるため、防水対策をおすすめします。